

平成24年度

千葉県

# 袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書

ちゅうろ  
中六遺跡第15次調査

かさ がみ  
笠上A遺跡第1次調査

さん や かい づか  
山野貝塚第4次調査

ちゅうろ  
中六遺跡第17次調査

さん や かい づか  
山野貝塚第5次調査

平成25年3月

袖ヶ浦市教育委員会



## 序 文

房総半島の東京湾側中央部に位置する袖ヶ浦市は、房総半島北部から続く下総台地の南端に当たる台地と小櫃川によって形成された平野部に土地が大きく区分され、それぞれの土地の特性を生かした農産物が生産される一方、海岸部は各種工業製品の製造のほか、電力、火力を供給する工業地帯として、自然と調和したまちづくりが進められています。また、近年では東京湾アクアラインをはじめとする道路網の整備や近隣市での大型商業施設の開設等により、県内はもとより対岸地域からの観光客や移住者の増加に伴い、宅地造成や住宅建設など各種の開発が増加しているところでもあります。

開発事業は、埋蔵文化財とも密接に関係しており、両者の調和を図り、埋蔵文化財をよりよい状態で保護し、後世に伝えていくことは現在を生きる私たちにとっての責務であるといえるでしょう。

本市では、昭和63年度から国庫及び県費の補助を受け、市内の遺跡の発掘調査事業を実施し、開発に先立ち各遺跡の状況を把握することで、埋蔵文化財の保護と開発との調整に活かしております。また、保存目的のための発掘調査も併せて実施し、遺跡の保存に向けても活かしております。これらの発掘調査成果は、報告書という形で記録・刊行されます。1人でも多くの市民の皆様に発掘調査報告書を手にしていただき、埋蔵文化財への理解と関心を深めていただくとともに、郷土の歴史への思いを深めていただければ幸いに存じます。

最後に、発掘調査の実施から発掘調査報告書の刊行にいたるまでご指導・ご協力をいただきました千葉県教育委員会文化財課をはじめ、関係者の皆様に対して心から厚くお礼申し上げます。

平成25年3月

袖ヶ浦市教育委員会  
教育長 川島 悟

# 例 言

1. この報告書は、平成24年度に調査を実施した中六遺跡第15次調査・笠上A遺跡第1次調査・山野貝塚第4次調査・中六遺跡第17次調査・山野貝塚第5次調査を収録した平成24年度袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書である。
2. 調査は、国庫・県費補助事業として千葉県教育委員会の指導を受け、発掘調査から整理作業までの業務を袖ヶ浦市教育委員会が実施した。
3. 調査ならびに整理作業期間は、下記のとおりである。

中六遺跡第15次調査	平成24年5月7日～同年5月16日、平成25年2月1日～同年2月8日
笠上A遺跡第1次調査	平成24年6月25日～同年6月28日、平成25年2月1日～同年2月8日
山野貝塚第4次調査	平成24年7月17日～同年7月30日、平成25年2月4日～同年2月15日
中六遺跡第17次調査	平成24年11月28日～同年12月7日、平成25年2月18日～同年2月22日
山野貝塚第5次調査	平成25年1月28日～同年2月8日、平成25年2月18日～同年2月28日
4. 各遺跡の所在地は、下記のとおりである。

中六遺跡第15次調査	袖ヶ浦市蔵波字中六1,259番地4他
笠上A遺跡第1次調査	袖ヶ浦市久保田字行基谷3,382番地他
山野貝塚第4次調査	袖ヶ浦市飯富字山野3,516番地21他
中六遺跡第17次調査	袖ヶ浦市蔵波字中六1,259番地3他
山野貝塚第5次調査	袖ヶ浦市飯富字山野3,544番地17
5. 各遺跡の調査ならびに整理作業・報告書作成の担当者は、下記のとおりである。

中六遺跡第15次調査	調査：田中大介	整理・報告書作成：田中大介
笠上A遺跡第1次調査	調査：桐村久美子	整理・報告書作成：桐村久美子・田中大介
山野貝塚第4次調査	調査：田中大介	整理・報告書作成：田中大介
中六遺跡第17次調査	調査：西原崇浩	整理・報告書作成：田中大介
山野貝塚第5次調査	調査：田中大介	整理・報告書作成：田中大介
6. 報告書で使用した地形図は、以下のとおりである。

第1図	国土地理院発行	1/25,000地形図	奈良輪・姉崎・木更津・上総横田
第2図	平成5(1993)年	袖ヶ浦市発行	1/2,500 袖ヶ浦市地形図No.13・14・18・19
第3図	平成5(1993)年	袖ヶ浦市発行	1/2,500 袖ヶ浦市地形図No.5・9
第4図	昭和54(1979)年	袖ヶ浦町発行	1/2,500 袖ヶ浦町地形図No.18・19
7. 本書で使用したトレンチ名や遺構名は、基本的に発掘調査時のものを使用した。
8. 本書の挿図の表記は、便宜上調査次数を( )で示した。 第2次調査 → (2)
9. 今回の調査に伴う遺物・記録類等は、袖ヶ浦市教育委員会で保管する予定である。
10. 各遺跡のコードは、中六遺跡(SG013)・笠上A遺跡(SG113)・山野貝塚(SG110)である。各遺跡の調査は、数次にわたり実施されていることから、遺跡名の後に括弧付けの数字で調査次数を表記することとした(例 中六遺跡(15)→SG013(15))である。
11. 調査から報告書刊行にいたるまで、千葉県教育委員会をはじめとする関係諸機関の方々からご指導・ご協力をいただいた。また、現地での作業においては調査区の土地所有者各位の協力をいただいた。山野貝塚の周辺採集資料は、伊藤明義氏、杉田信夫氏が採集し、提供下さったものである。記して謝意を表したい。

# 目次

序文	
例言	
序章 調査概要	1
1. 調査に至る経緯	
2. 調査経過	
3. 調査組織	
第2章 各遺跡の概要	3
1. 中六遺跡	
2. 笠上A遺跡	
3. 山野貝塚	
第3章 中六遺跡第15次調査	8
1. 調査の概要	
2. まとめ	
第4章 笠上A遺跡第1次調査	12
1. 調査の概要	
2. まとめ	
第5章 山野貝塚第4次調査	14
1. 調査の概要	
2. まとめ	
第6章 中六遺跡第17次調査	19
1. 調査の概要	
2. まとめ	
第7章 山野貝塚第5次調査	22
1. 調査の概要	
2. まとめ	

# 挿図目次

第1図 調査遺跡位置図
第2図 中六遺跡調査区位置図
第3図 笠上A遺跡(1)と周辺の地形
第4図 山野貝塚周辺の地形・遺跡
第5図 山野貝塚全体図
第6図 中六遺跡(15)遺構確認状況図及びトレンチ断面図
第7図 中六遺跡(15)出土遺物実測図
第8図 笠上A遺跡(1)遺構確認状況図、トレンチ断面図及び出土遺物実測図
第9図 山野貝塚(4)遺構確認状況図(1)
第10図 山野貝塚(4)遺構確認状況図(2)及びトレンチ断面図
第11図 山野貝塚(4)トレンチ出土遺物実測図
第12図 山野貝塚(4)周辺採集遺物実測図(1)
第13図 山野貝塚(4)周辺採集遺物実測図(2)
第14図 中六遺跡(17)遺構確認状況図及びトレンチ断面図
第15図 中六遺跡(17)出土遺物実測図
第16図 山野貝塚(5)遺構確認状況図及びトレンチ断面図
第17図 山野貝塚(5)トレンチ出土遺物実測図
第18図 山野貝塚(5)周辺採集遺物実測図

# 表 目 次

表 1 山野貝塚(4)出土遺物及び周辺採集遺物重量一覧表

表 2 山野貝塚(5)出土遺物及び周辺採集遺物重量一覧表

# 図 版 目 次

図版. 1 中六遺跡(15)

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1. 調査前風景        | 2. 1トレンチ遺構確認状況  |
| 3. 2トレンチ遺構確認状況  | 4. 3トレンチ遺構確認状況  |
| 5. 9トレンチ遺構確認状況  | 6. 11トレンチ遺構確認状況 |
| 7. 14トレンチ遺構確認状況 | 8. 27トレンチ遺構確認状況 |

図版. 2 笠上A遺跡(1)

- |                  |                  |
|------------------|------------------|
| 1. 遺跡遠景          | 2. 調査前風景         |
| 3. 1トレンチ遺構確認状況   | 4. 1トレンチ遺構確認状況近景 |
| 5. 1トレンチ土層断面     | 6. 2トレンチ遺構確認状況   |
| 7. 1・2トレンチ遺構確認状況 | 8. 3トレンチ完掘状況     |

図版. 3 山野貝塚(4)

- |               |                 |
|---------------|-----------------|
| 1. 北側調査区調査前風景 | 2. 24トレンチ完掘状況   |
| 3. 25トレンチ完掘状況 | 4. 南側調査区調査前風景   |
| 5. 26トレンチ完掘状況 | 6. 27トレンチ遺構確認状況 |
| 7. 28トレンチ完掘状況 | 8. 28トレンチ土層断面   |

図版. 4 中六遺跡(17)

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1. 4トレンチ遺構確認状況  | 2. 6トレンチ遺構確認状況  |
| 3. 23トレンチ遺構確認状況 | 4. 27トレンチ遺構確認状況 |
| 5. 27トレンチ遺物出土状況 | 6. 30トレンチ土層断面   |
| 7. 38トレンチ遺構確認状況 | 8. 43トレンチ遺構確認状況 |

図版. 5 山野貝塚(5)

- |                  |                 |
|------------------|-----------------|
| 1. 調査前風景         | 2. 29トレンチ遺構確認状況 |
| 3. 29トレンチ溝状遺構    | 4. 29トレンチ溝状遺構   |
| 5. 29トレンチ北西壁土層断面 | 6. 30トレンチ遺構確認状況 |
| 7. 31トレンチ遺構確認状況  | 8. 32トレンチ遺構確認状況 |

図版. 6 中六遺跡(15)出土遺物、笠上A遺跡(1)出土遺物、山野貝塚(4)周辺採集遺物

図版. 7 山野貝塚(4)トレンチ出土遺物・周辺採集遺物

図版. 8 山野貝塚(4)周辺採集遺物

図版. 9 中六遺跡(17)出土遺物、山野貝塚(5)トレンチ出土遺物

図版. 10 山野貝塚(5)トレンチ出土遺物

図版. 11 山野貝塚(5)周辺採集遺物

# 序章 調査概要

## 1. 調査に至る経緯

袖ヶ浦市教育委員会では、市内に所在する遺跡について、開発行為に際して事業を行う場所や実施方法を検討する資料を得るために、また、遺跡保存目的の範囲確認のために国及び県の補助金を受けて発掘調査を実施している。

平成24年度は、次の5件について確認調査から発掘調査報告書作成までを実施した。

- 1 中六遺跡第15次調査(確認調査) … 宅地造成に伴う調査
- 2 笠上A遺跡第1次調査(確認調査) … 急傾斜地崩落対策に伴う調査
- 3 山野貝塚第4次調査(確認調査) … 遺跡範囲確認に伴う学術調査
- 4 中六遺跡第17次調査(確認調査) … 宅地造成に伴う調査
- 5 山野貝第5次調査(確認調査) … 遺跡範囲確認に伴う学術調査

## 2. 調査経過

### 中六遺跡第15次調査

5月7日：重機搬入、環境整備、トレンチ掘削(重機：1～9、11トレンチ)、写真撮影(調査前風景)、8日：トレンチ掘削(重機：10～23トレンチ)、遺構確認作業(1～18トレンチ)、写真撮影(1～3、11、14トレンチ遺構確認状況)、9日：トレンチ掘削(人力：23～26、31トレンチ)、遺構確認作業(19～22トレンチ)、写真撮影(19トレンチ遺構確認状況)、平面実測(トレンチ配置図)、10日：トレンチ掘削(人力：27～30、32トレンチ)、遺構確認作業(27～30、32トレンチ)、平面実測(トレンチ配置図)、断面実測(19トレンチ東壁)、写真撮影(2、22トレンチ遺構確認状況)、11日：トレンチ掘削(重機：33、34トレンチ)、遺構確認作業(27トレンチ)、平面実測(トレンチ配置図)、断面実測(10、19、27トレンチ)、写真撮影(27、34トレンチ遺構確認状況)、埋め戻し、14日：遺構確認作業(33、34トレンチ)、平面実測(トレンチ配置図)、断面実測(34トレンチ)、写真撮影(34トレンチ)、埋め戻し、15日：雨天のため現場作業中止、16日：トレンチ掘削(35トレンチ)、遺構確認作業(35トレンチ)、写真撮影(35トレンチ遺構確認状況)、埋め戻し、写真撮影(調査終了風景)、重機搬出、環境整備

### 笠上A遺跡第1次調査

6月25日：重機搬入、環境整備、写真撮影(調査前風景)、トレンチ掘削(重機：1～3トレンチ)、重機搬出、26日：遺構確認作業(1～3トレンチ)、写真撮影、27日：断面実測、平面実測(トレンチ配置図)、写真撮影、28日：平面実測(1、2トレンチ平面図)、環境整備

### 山野貝塚第4次調査

7月17日：草刈、伐採、写真撮影(調査前風景)、18日：トレンチ掘削(人力：24、25、28トレンチ)、遺構確認作業(24、25トレンチ)、写真撮影(24、25トレンチ遺構確認状況)、19日：トレンチ掘削(人力：26～28トレンチ)、遺構確認作業(26トレンチ)、20日：トレンチ掘削(人力：27、28トレンチ)、実測(24～26トレンチ平面図)、写真撮影(26トレンチ遺構確認状況)、23日：現場作業中止、24日：遺構確認作業(27、28トレンチ)、実測(27、28トレンチ平面図・断面図)、写真撮影(27、28トレンチ遺構確認状況)、埋め戻し、25、26日：現場作業中止、27日：埋め戻し、写真撮影(調査終了風景)、環境整備、30日：環境整備

### 中六遺跡第17次調査

11月28日：環境整備、トレンチ掘削(重機)、29日：トレンチ掘削(重機)、遺構確認作業、30日：トレンチ掘削(重機)、遺構確認作業、12月3日：遺構確認作業、平面実測、4日：雨天のため現場作業中止、5日：トレンチ掘削(人力)、遺構確認作業、6日：トレンチ掘削(人力)、平面実測、埋め戻し、7日：埋め戻し、重機搬出、環境整備

### 山野貝塚第5次調査

1月28日：環境整備、29日：写真撮影(調査前風景、29トレンチ遺構確認状況)、トレンチ掘削(人力：29トレンチ)、30日：トレンチ掘削(人力：29トレンチ)、遺構確認作業(29トレンチ)、31日：トレンチ掘削(人力：29、30トレンチ)、トレンチ精査(29トレンチ)、写真撮影(29トレンチ遺構確認状況)、2月1日：トレンチ掘削(人力：31、32トレンチ)、トレンチ精査(29トレンチ)、平面実測、写真撮影(29～32トレンチ完掘状況)、4日：現場作業中止、5日：断面実測(29トレンチ)、埋め戻し、6日：雨天のため現場作業中止、7日：現場作業中止、8日：埋め戻し、写真撮影(調査終了風景)、環境整備

## 3. 調査組織

調査主体 袖ヶ浦市教育委員会

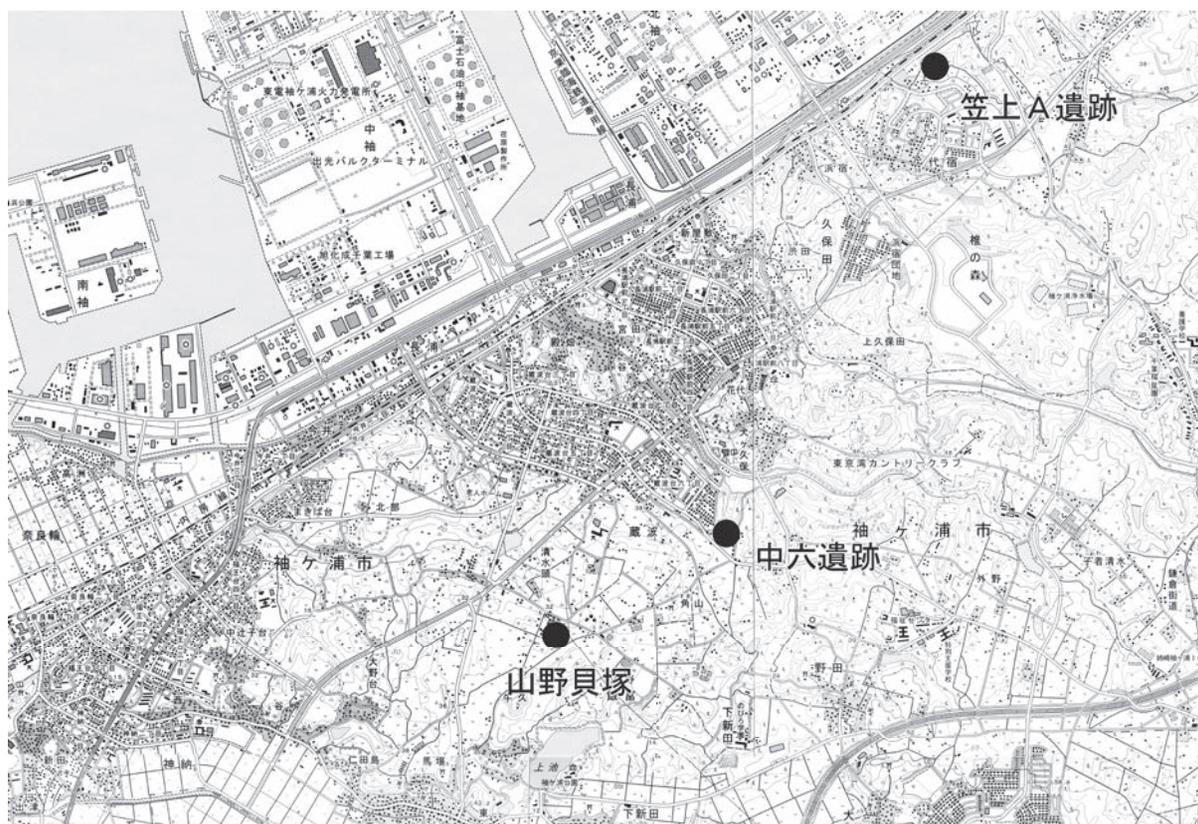
教育長 川島 悟 教育部長 茂木 好明

教育部次長 篠原 幸一(平成24年8月28日まで)

教育部参事兼生涯学習課長 井口 崇

文化振興班長 西原 崇浩 主査 桐村 久美子

主任主事 田中 大介 主事 前田 雅之



第1図 調査遺跡位置図 (1 : 30,000)

## 第2章 各遺跡の概要

### 1. 中六遺跡(第2図)

中六遺跡は、蔵波川左岸の標高約40～45mの台地上に所在する。

遺跡の北側には蔵波川によって開析された2つの谷が入り込み、その谷に面した部分を中心に縄文時代早期及び古墳時代前期を主体とする遺構が展開する。また、両谷によって舌状に伸びた台地の先端部には大谷古墳群が位置している。

本遺跡はこれまで18次の調査が行われ、検出遺構数が確定している第16次調査まで、旧石器時代の遺物集中箇所1箇所、縄文時代早期の炉穴262基・陥穴16基・土坑61基、弥生時代後期の方形周溝墓1基、古墳時代前期の竪穴住居46軒・掘立柱建物1棟・方墳2基・竪穴状遺構1基、古墳時代後期の円墳1基・土壙墓2基、平安時代の火葬墓2基、時期不明の土坑33基・溝11条・道路状遺構10条・円形周溝状遺構1基を検出した。平成20・21年度に行われた第12次調査で検出された炉穴群を含む縄文時代早期の遺構は市内で最大規模を誇り、また9基の炉穴からは貝層が検出され、本市周辺の縄文時代早期を考えていくうえで非常に重要な遺跡である。一方、古墳時代前期については、集落居住域の大部分を調査したことになり、当該期の集落を考えていくうえで貴重な遺跡である。

本遺跡の周辺には本遺跡の主体となる縄文時代早期及び古墳時代の遺跡が多く分布している。蔵波川上流には多数の炉穴、礫群が検出された堂庭山B遺跡、子者清水遺跡、正源戸遺跡が分布する。また、水系は異なるが、蔵波川を挟んだ北東側の久保田川水系に分布する美生遺跡群からも多くの炉穴、礫群が検出されている。西側の境川水系の百々目木C遺跡でも多数の炉穴が検出されている。古墳時代前期の遺跡は、蔵波川を挟んだ対岸に神田遺跡と前方後方墳と方墳からなる神田古墳群、西久保下遺跡が分布し、蔵波川上流には古墳時代後期の前方後円墳が調査された蔵波六山遺跡が分布する。北東側の美生遺跡群では多数の住居が検出されている。

### 2. 笠上A遺跡(第3図)

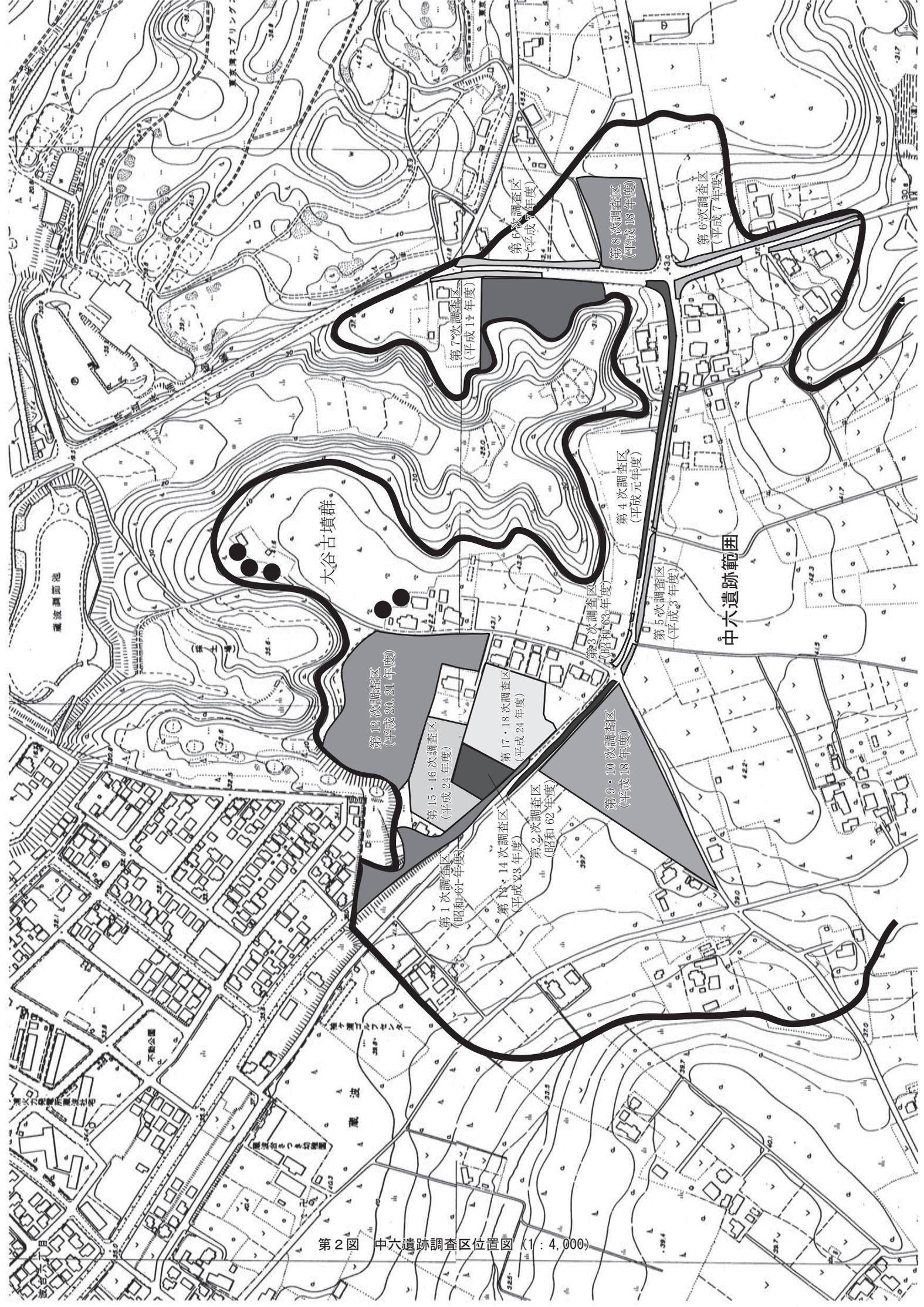
笠上A遺跡は、笠上川によって形成された標高37mの台地上に所在する。

本遺跡は、古墳時代の包蔵地として周知されてきたが、これまで発掘調査は行われていなかった。遺跡の立地する台地には、かつて笠上寺(笠上観音堂)が所在した。笠上A遺跡から、南東へ笠上川をさかのぼると、東岸に旧石器時代の遺物集中地点6箇所、環状ブロックなどを検出した上笠上谷遺跡が所在する。笠上A遺跡の南東に位置する笠上D遺跡では、石刃が表採されている。

### 3. 山野貝塚(第4・5図)

山野貝塚は、小櫃川によって形成された標高約37mの台地上に所在する。

本遺跡が立地する袖ヶ浦市北部の袖ヶ浦台地は、下総台地の最南端に位置し、その北西部では蔵波川、久保田川等の小河川が台地南東から北西の東京湾に向かって流れており、それらの小河川によって樹枝状に開析され複雑な地形を呈する。本遺跡も、北側を境川によって開析された小支谷、南側を小櫃川によって開析された谷に挟まれ、台地がもっとも細まった部分に立地していることになる。遺跡南側の谷は小支谷の最奥部に相当し、急斜面を形成する。一方、北側は緩やかな斜面となっているが、本遺跡の北東側に一部小さな谷が入り込んでいる。



第2図 中六遺跡調査区位置図 (1:4,000)

本遺跡は、古くからその存在が知られ、大正9年に踏査された内容が報告されている(横山1931)。その後、数度の調査が実施されたが、正式に報告書が刊行されるのは昭和48年度の調査以降となる。昭和48年度の調査は、東京電力送電線鉄塔建設に伴う調査で、東側貝層部分の約900m<sup>2</sup>が調査された(第1次調査)。調査の結果、後期堀之内式期の土坑1基と後期の貝層が検出された。貝層の遺存状況が良好な時期に調査が実施されたため、貝層からは多量の貝類、獣骨が出土した。続いて、平成4年度に千葉県主要貝塚確認調査として、国庫補助で貝塚全体の確認調査が実施された(第2次調査)。本調査では、発掘調査以前に、詳細なボーリング調査及び表面観察を行い、貝層の堆積範囲及び分布範囲を確認した。発掘調査では、貝層の各箇所にはトレンチを入れ、縄文時代後・晩期の竪穴住居12軒、土坑15基以上、貝層20箇所以上が検出された。特に、地表面では貝層の分布が確認されなかった遺跡北側の1・3トレンチで堀之内式期の柄鏡形住居が検出されたことは注目される。本調査の結果、南北140m、東西150mの範囲の東西に相弧状に貝層が展開することが確認された。これらの調査結果から遺跡の重要性を鑑み、平成12年に袖ヶ浦市指定文化財に、平成21年度に千葉県指定文化財に指定された。その後、本遺跡周辺の土地開発の進展に伴い、行政側から遺跡を保存する機運が高まり、さらに保存と併せて活用を行うことを目的とした「山野貝塚保存活用事業」が平成22年度より開始され、その一環として、保存目的の範囲確認調査が継続的に実施された(第3～5次調査)。

本遺跡周辺は、袖ヶ浦市内でも縄文時代後期の遺跡が多く分布する地域である。本遺跡の北東約100mに位置する伊丹山遺跡では後期初頭から前葉の竪穴住居2軒、小竪穴1基等が検出され、本遺跡に先行する集落が存在したものと考えられる。東側100mに位置する角山遺跡では、同時期の明確な遺構は検出されていないものの後・晩期の遺物出土している。上池を挟んだ南東1kmに位置する宮ノ越貝塚は、発掘調査はされていないものの、分布調査等から北側に開口部を有する後期前葉の馬蹄形を呈する貝塚と考えられている。また、宮ノ越遺跡西側隣接地の西ノ窪遺跡では堀之内式期の住居跡が検出されているようである。宮ノ越遺跡の南東側に近接する境No.2遺跡からは堀之内式期の土坑が検出され、後・晩期の土器も出土している。さらに南側に目を転じると、小櫃川左岸の鍮水川周辺の丘陵部において中期末葉と後期初頭の竪穴住居が検出された嘉登遺跡、後期から晩期にかけての中央窪地型集落を呈する上宮田台遺跡が位置する。このように、本市の縄文時代後・晩期の遺跡は、山野貝塚が位置する下総台地最南端に相当する台地上と上宮田台遺跡が位置する小櫃川左岸の丘陵上に、現状では大きく2分する傾向にある。

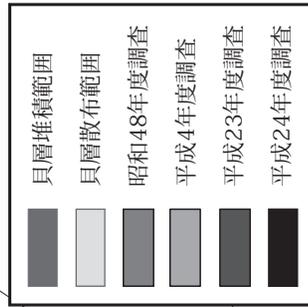


第3図 笠上A遺跡(1)と周辺の地形(S=1/2,500)



第4図 山野貝塚周辺の地形・遺跡 (1 : 6,000)

※トーンは谷部分を示す



第5図 山野貝塚全体図 (1 : 2,000)

## 第3章 中六遺跡第15次調査

### 1. 調査の概要(第2・6・7図、図版1・6)

調査方法 調査は、宅地造成事業に伴い4,091㎡を調査対象として実施した。確認調査トレンチは、世界測地系に基づく座標に沿って打設した方眼杭を基に、南北5m間隔、東西10m間隔で2×5mの面積を基準として設定した。作物が植わっていた調査区西側については可能な箇所にトレンチを設定した。トレンチの掘削は重機により行い、遺構確認作業は人力により行った。遺構が確認されなかったトレンチの周辺については、幅0.5mを基準とするトレンチを追加設定し、人力で掘削及び遺構確認作業を行った。遺構確認面はソフトローム漸移層としたが、縄文時代炉穴、遺物包含層が確認された箇所についてはソフトローム層まで掘り下げた。

遺構・遺物 調査区は、中央部分が谷状にやや低くなる地形を呈する。検出された遺構は、縄文時代早期の炉穴8基、同時期の遺物包含層1箇所、古墳時代前期の竪穴住居6軒である。

縄文時代早期の遺構、遺物包含層は調査区中央から北東部から検出し、特に土層の堆積が最も深くなる4トレンチで遺物が多く出土した。11トレンチで検出された炉穴は複数の炉穴が重複しアメンバー状を呈する。古墳時代前期の竪穴住居は調査区の中央から東側で検出された。これまでの調査で検出された住居と同様に北西-南東の主軸方向を示す。27トレンチで確認された住居は耕作土下で即床面が確認されているが、この住居だけ主軸が北-南方向と異なる。調査区南西側では遺構は検出されなかったが、19、34、35トレンチの2層黒褐色土中から556.23gと比較的多くの古墳時代前期の土師器が出土した。特に19トレンチと34トレンチの落ち込み部分からは壺の肩部の同一個体が出土している(第7図13)。これらの落ち込み部分は、宝永の火山灰を含む土層に被覆されていることから、その上限は近世までと考えられるが具体的な形成時期は不明である。

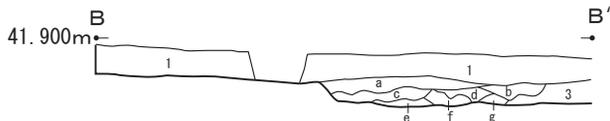
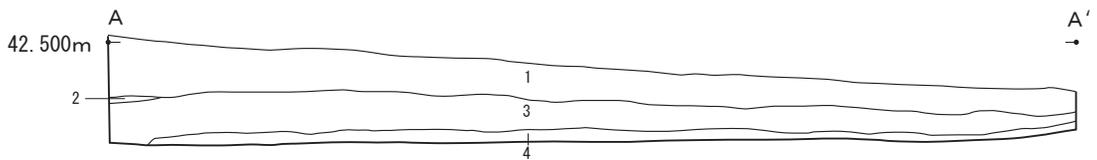
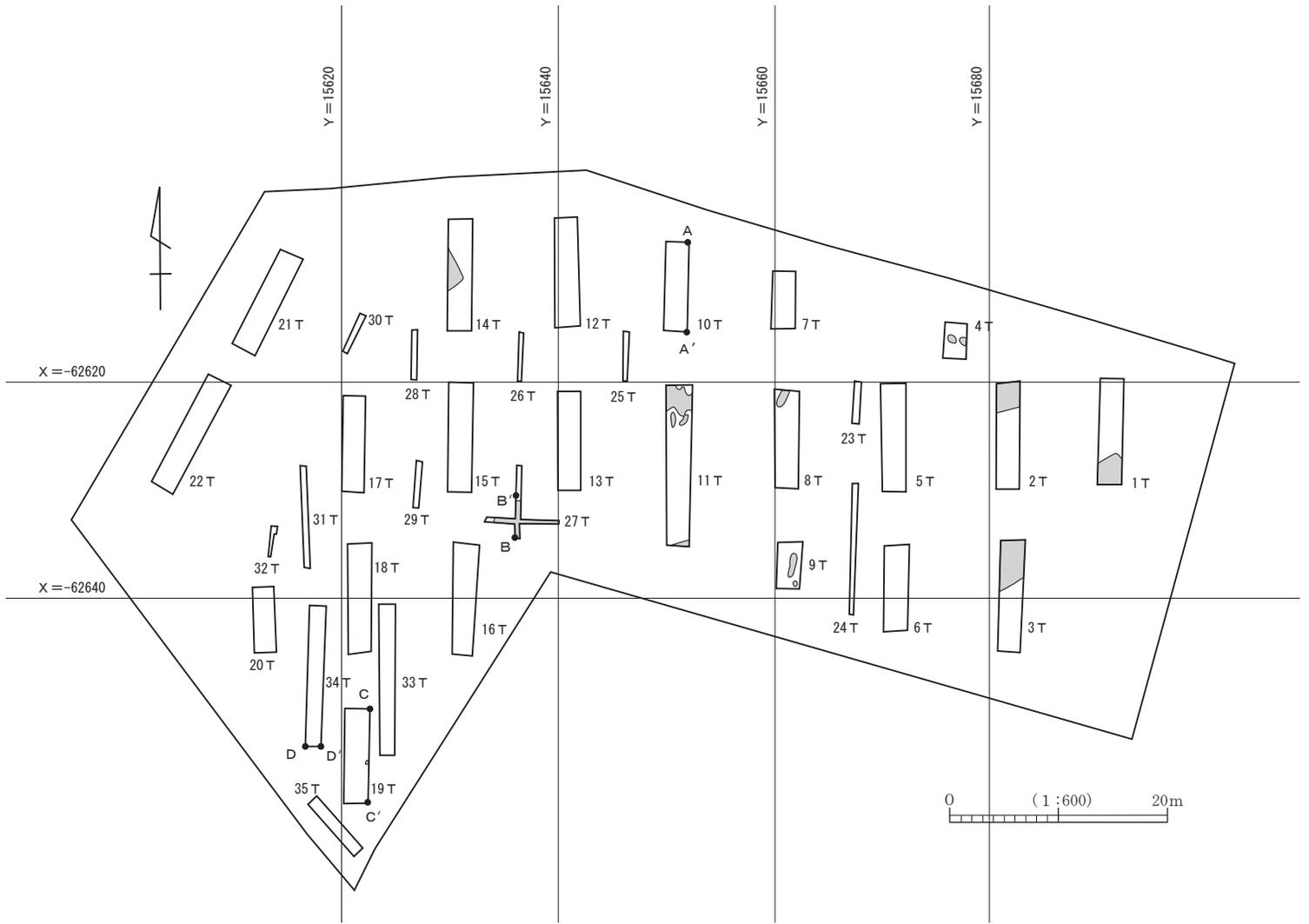
遺物は、縄文時代早期の土器1,315.89g、同前期の土器27.6g(1点)、同中期の土器48.56g(1点)、石鏃1点、石錐1点、磨石2点、古墳時代前期の土師器2,049.4g出土した。縄文時代早期の土器の内訳は、撚糸文土器6.44g、沈線文土器51.98g、繊維入り無文土器1,026.89g、条痕文土器230.58gである。基本的に出土遺物はこれまでの調査と同様の傾向を呈する。

1は撚糸文土器の頸部付近である。縄文LRが施される。2は沈線文土器である。左上から右下方向に2条1対の沈線を数条施した後、その条間を繋ぐように右上から左下方向の2条1対の沈線を加え、口唇部外面に連続する刻みが施される。口唇部は角頭状を呈し、口唇端部にも2条1対の沈線が施される。3～6は繊維入り無文土器で、胎土に繊維を含み、表裏面に擦痕が施される。7は条痕文土器である。胎土に繊維を含み表裏面に条痕文が施される。8は前期諸磯式の浅鉢口縁部である。不明瞭ながら地紋に縄文を施しているようであり、その後半裁竹管により沈線が施される。口縁部には獣面突起が貼り付けられる。9は中期加曾利E式の土器であろうか。曲線的に垂下する隆帯の内側に縄文RLが施される。10は黒曜石製の石鏃である。全面剥離されており、素材は不明であるが、全周縁からの微細な調整により、凹基の二等辺三角形状を呈する。重量3.92g。11は凝灰岩か頁岩製の石錐である。両面に礫面が残存していることから、扁平な礫を素材とし、周縁に微細な調整を施し、逆三角形状を呈したと思われる。先端部は欠損している。5.52g。12は流紋岩製の磨石である。扁平円礫を素材とし側面を使用もしくは調整により敲打し、略円形を呈する。両面ともよく研磨され光沢が認められる。356.40g。13～17は古墳時代前期の土師器である。13は壺の頸部から肩部である。単節LRの結節縄文を施文した後、円文が貼り付けられる。14は壺の口縁部から頸部で

ある。折返し口縁を呈し、折返し部には縦位のハケメ調整が施される。口縁部外面は縦位のミガキ、内面には横位のミガキが施される。15は甕の口縁から胴部である。外面に縦位、斜位のナデが施される。16は壺または甕の底部である。内外面に横位のナデが施される。17は器台の脚部である。外面に縦位のミガキが施され、焼成前の穿孔が認められる。

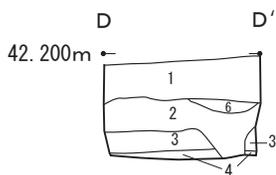
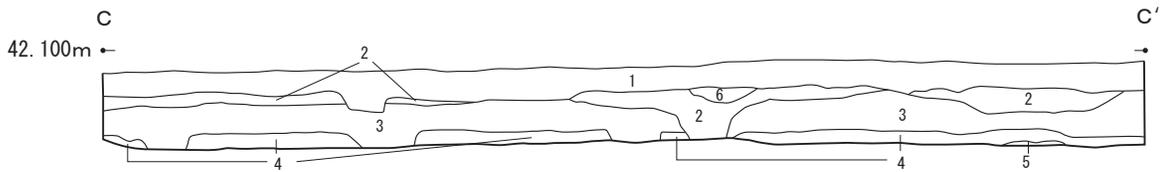
## 2. まとめ

第15次調査区は北側の第12次調査区と南側の第14次調査区の上に位置する。縄文時代早期の遺構については、第12次調査区の南側で一端途切れるが、本調査区の谷部付近で再び散見され、南側の第14次調査区では検出されなかった。このことから、本調査区の中央部付近が縄文時代早期の遺構群の南西側の限界を示すものと考えられる。古墳時代前期については、第12次調査区と第14次調査区を繋ぐように同一の主軸を有する竪穴住居を検出したことから、途切れることなく集落が展開するようである。本調査区西側の第1次調査区では古墳時代の遺構が検出されていないことから、27トレンチ付近が古墳時代の集落の西限を示す可能性がある。なお、調査区南西端部の2層黒色土中から一定量の古墳時代前期の土師器が検出されたが、この傾向は北側の第11次調査区、東側の第17次調査区でも認められている。2層は基本的には3層及び古墳時代前期の竪穴住居覆土を被覆する形で堆積しているが、本調査区の19・34トレンチでは、不明確ではあるが3層を掘り込む部分も認められ、その掘り込みの底面から古墳時代前期の土器片（第7図13）が出土した。前述したように2層は宝永の火山灰を含む層に被覆されていることから、その上限は近世中頃である。2層が漆黒色に近い黒色を呈していることから、土壌化により形成された可能性が高いが、そこに一定量の遺物が含まれることから、何らかの生活痕跡が存在した可能性も考えられる。今後、周辺の調査が実施された場合は、この部分についてもさらに注意して調査する必要がある。



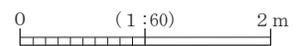
セクションポイントB-B'

- a. 黒褐色土 非常によくしまる。住居床面。
- b. 黒褐色土 φ3~5mmの茶褐色ブロックを少量含む。
- c. 黒褐色土 φ5mmの茶褐色ブロックを含む。
- d. 黒褐色土 ローム粒斑状に混入。
- e. 暗黄褐色土 ロームブロック主体。
- f. 黒褐色土 ロームブロック斑状に混入。
- g. 暗黄褐色土 ロームブロック主体。

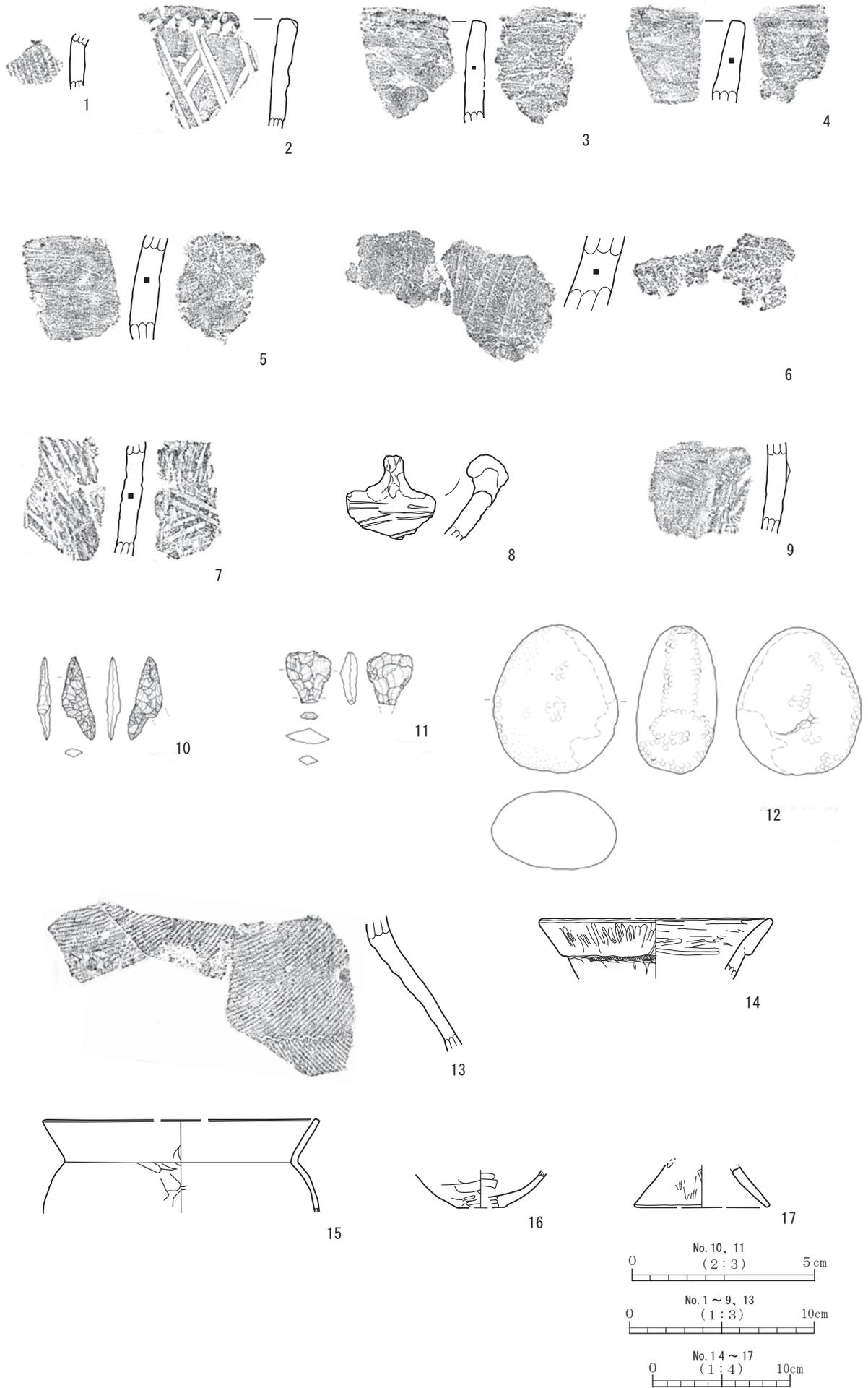


セクションポイントA~D共通

- 1. 暗灰褐色土 耕作土
- 2. 黒褐色土 橙色粒少量含む
- 3. 暗褐色土 φ10mm茶褐色ブロックを多量に含む
- 4. 暗褐色土 ソフトローム層との漸移層
- 5. 暗黄褐色土 ソフトローム層
- 6. 灰褐色土 宝永の火山灰を含む



第6図 中六遺跡(15)遺構確認状況図及びトレンチ断面図



第7图 中六遺跡 (15) 出土遺物実測図

## 第4章 笠上A遺跡第1次調査

### 1. 調査の概要(第3・8図、図版2・6)

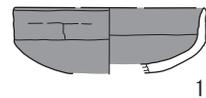
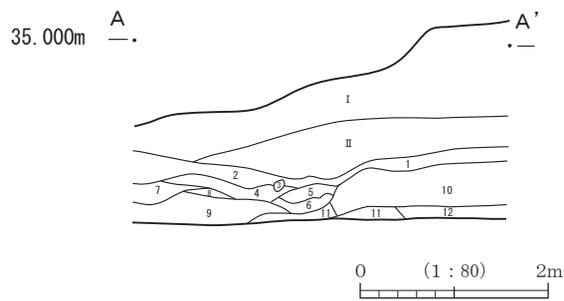
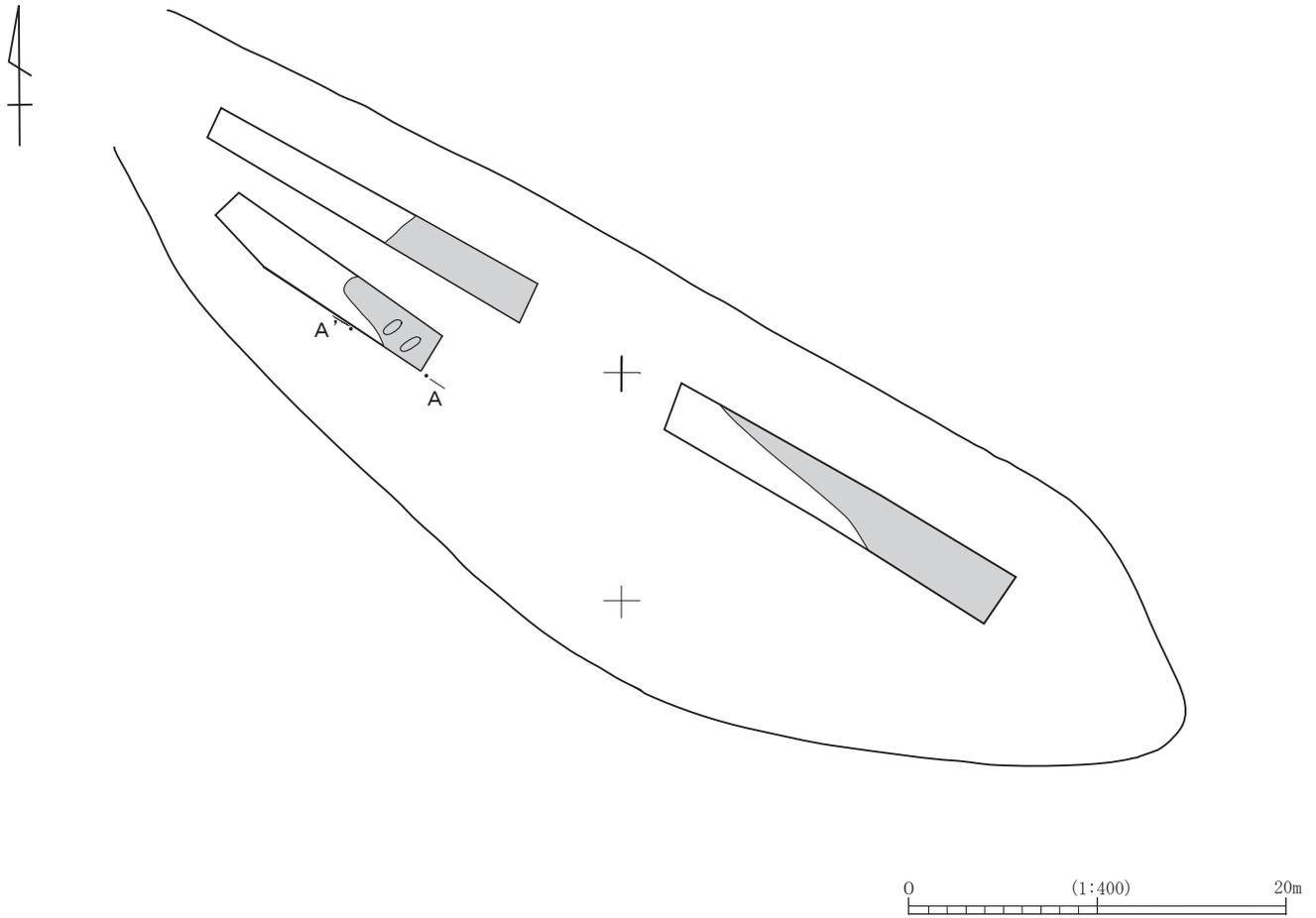
**調査方法** 調査は、急傾斜地崩落対策に伴うものである。916㎡を調査対象として実施した。現地は、切り立った崖の上で道によって分断された狭い土地であり、確認調査トレンチは、その細長い地形に合わせて、北東-南西方向へ全部で3箇所設置し、調査地のうち33.5㎡を調査した。トレンチの掘削は重機により行い、遺構確認作業は人力により行った。トレンチは、幅1mで設定し、長さは状況により6mから10mとした。

**遺構・遺物** 1・2トレンチにおいて、古墳時代後期と考えられる竪穴住居を検出した。1トレンチでは、カマド袖と思われる白粘土を多く含んだ土壌を検出。遺物もカマド周辺から多く出土した。遺構確認面はソフトローム漸移層であるが、1トレンチの土層からは、ソフトローム漸位層よりも上位の暗褐色土・黒色土を掘りぬいた煙道らしき痕跡も見受けられる。3トレンチは、ハードロームにいたるまで大きく掘削を受けており、遺構・遺物を検出することはできなかった。

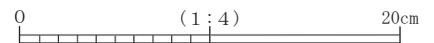
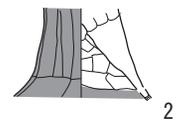
遺物は、1トレンチで土師器甕片8点(124.58g)・土師器高坏片4点(150.06g)・支脚片3点(102.21g)を採集。2トレンチから土師器高坏片10点(30.26g)を採集。3トレンチは遺物なし。ほか、排土中から土師器甕片1点(48.32g)・土師器高坏片2点(12.26g)・支脚2点(6.37g)を採集した。1トレンチの遺物は、カマド周辺から多く出土している。第8図の1は坏で、2トレンチの住居範囲内から出土。口径10.2cm、残存高は3.4cm。10%程度の遺存で、内外面とも赤彩が施される。色調は赤褐色、胎土に赤色粒・橙色粒を含む。2は、高坏の脚部で、脚部の70%程度の遺存。残存高は4.9cm。外面及び内面の最下部に赤彩が施される。色調は、明赤褐色で、胎土に白色粒・褐色粒・雲母を含む。

### 2. まとめ

遺跡の北西端部にあたる今回の調査地で古墳時代後期の竪穴住居を検出した。遺跡はここから南東の台地内に広がっていると考えられ、台地上に古墳時代後期の集落が展開していることが予想できる。



- I. 黒色土 非常にしまりなく、ふわふわしている。
- II. 黒色土 ややしまりなし。
- 1. 黒褐色土 ローム粒子・ローム粒を含む。
- 2. 明褐色土 ローム粒子・ローム粒多く含む。
- 3. 暗赤褐色土 焼土ブロック。
- 4. 褐色土 ローム粒子・ローム粒多く含む。
- 5. 暗赤褐色土 カマドの煙道か。焼土を多く含む。
- 6. 黒褐色土 カマドの煙道か。
- 7. 暗褐色土 ローム粒子・ローム粒多く含む。
- 8. 黒褐色土 ローム粒子・ローム粒多く含む。
- 9. 暗褐色土 ローム粒子・ローム粒多く含む。ロームブロック含む。
- 10. 黒色土 ローム粒子・ローム粒多く含む。ロームブロックを含む。
- 11. 明褐色土 カマド袖か。全体に粘土を多く含む。
- 12. 褐色土 ローム粒子・ローム粒多く含む。



第8図 笠上A遺跡 (1) 遺構確認状況図、トレンチ断面図及び出土遺物実測図

## 第5章 山野貝塚第4次調査

### 1. 調査の概要(第4・5・9～13図、図版3・6～8)

調査方法 調査は遺跡の保存目的の範囲確認調査である。調査対象地1,685㎡のうち、30㎡について調査を実施した。調査は、貝層北西側への集落の展開を把握することと貝層南側で縄文時代後期の土器が多量に採集された畑の隣接地の様相を把握することの2点を目的として実施した。遺跡の大部分が畑として利用されているため、調査時に耕作されておらず、かつ地権者の同意がいただけた箇所を調査範囲として設定した。その結果、貝層北西側では24・25トレンチの2箇所、貝層南側では26～28トレンチの3箇所に幅1.5～2m、長さ5mのトレンチを設定した。トレンチの掘削及び遺構確認作業は人力により行った。遺構確認面はソフトローム層とした。

なお、貝層南側調査区の南西側隣接地で採集された遺物についても本調査区出土遺物と併せて報告する。縄文土器は、時期のわかる精製土器については型式分類した一方、いわゆる粗製土器については文様構成で分類し、それぞれ重量を計測し出土傾向を把握した。トレンチ出土遺物については点数も計測した。

遺構・遺物 北西側調査区 北西側調査区は現在畑として利用されている。24トレンチは表土下15～25cmで地山ローム層に達し、遺物は出土しなかった。ローム層は非常に硬質であることからハードローム面と考えられる。盛土等縄文時代の土地改変の可能性も考慮し、トレンチの一部に深さ50cmほどのサブトレンチを入れたが、同様にハードローム層が続いていた。25トレンチは一部に耕作の影響を受けていたが、自然堆積層が残存していた。表土下45cmでソフトロームに達した。安行1式土器が3点出土した。

南側調査区 南側調査区は調査前篠竹が繁茂している荒無地であった。26～28トレンチともに同様の土層堆積状況を示し、奈良・平安時代以前の自然堆積層が残存していた。Ⅰ層は最近の造成層で、ロームブロック主体層である。Ⅱ層は明褐色を呈する新期テフラ層である。Ⅲ層は黒褐色土で縄文時代の遺物が少量出土した。Ⅳ層はソフトローム漸移層である。27トレンチでは北北西-南南東方向に走る溝状遺構が検出された。奈良・平安時代に降灰したと思われる新期テフラ層に被覆されていることから、平安時代以前に形成された溝である。ただし、覆土中からは縄文時代の遺物しか出土しておらず、明確な時代は不明である。

遺物は、本調査で出土した遺物と西側隣接地で採集された遺物に分けて報告する。

各トレンチの遺物出土量及び周辺採集遺物の採集量は表1のとおりである。採集遺物は堀之内式、加曾利B式を主体とし、晩期安行3b式が比較的多く採集されている。トレンチ出土遺物は、採集場所に隣接する27・28トレンチで堀之内式と加曾利B式が多く出土する。第11図は本調査でトレンチから出土した遺物である。1は後期安行式期の紐線文土器の口縁部である。条線のみ施文されるが、表面の状況から紐線文の貼り付けはなかったと思われる。2は安行2式の深鉢胴部付近と考えられる。横位沈線施文後矢羽状の沈線を施し、最後に豚鼻状の突起を貼り付ける。3は後期安行式期の紐線文土器の口縁部である。口縁部が肥厚し、内傾する。4は加曾利B式期もしくは晩期安行式期の浅鉢の底部と考えられる。丸底を呈し1条の沈線が巡る。5は堀之内式期の土器と考えられる。外面に曲線の沈線が数条施される。6は加曾利B式から曾谷式にかけての浅鉢の底部である。沈線施文後単節RLを底部全面に施す。第12～13図は周辺採集遺物である。1～4は堀之内式土器である。1は波状口縁を呈し波頂部下に焼成前の穿孔が施される。2は単節LRが施される。3は円形区画内に縦位の沈線が施される。4はおそらく波状口縁を呈する深鉢の胴部である。波頂部下は縦位に連続する列点を施し、その周囲に4条1対の斜方向の沈線が施される。5～19は加曾利B式土器である。5は鉢である。口縁部から底部までの一部が接合し、接合しない同一個体も数点採集されてい

る。多条の横位平行沈線が施文され、縄文が充填される。6は浅鉢の口縁部付近で内面に文様を有する。7は波状口縁の口縁部である。外面に単節LRが施され、内面には一条の沈線が巡る。8は深鉢の胴部である。上下が不明瞭であるが、単節RLを施した後、平行沈線と弧線によって区画された半月部分が磨り消される。9は小波状を呈する深鉢の口縁部である。縄文施文後斜沈線を施しその後口唇部に列点を施す。10は小波状を呈する浅鉢の口縁部である。11は台付鉢の口縁部から胴部である。胴部屈曲部の最大径は13.2cmを測る。口縁部は斜位沈線施文後横位沈線によって区画され、屈曲部までは無文帯となる。屈曲部以下は斜位沈線施文後屈曲部に連続する刻みが施される。12は台付鉢の台部である。単節RLが施される。13～19は加曾利B式に属する粗製土器と思われる。縄文を地紋とし、口縁部に紐線文が貼り付けられ、条線を施すものもある。20は曾谷式の深鉢口縁部である。横位沈線施文後突起を貼り付ける。21、22は安行1式である。21は波状を呈し波頂部に3つの高まりがある突起が貼り付けられる。22は3条の縄文帯形成後に2つの高まりがある突起が貼り付けられる。23は後期安行式期に属すると思われる粗製土器である。条線のみ施されるが、紐線文が剥落したものと考えられる。24～28は安行3b式土器である。24、25は波状口縁を呈する深鉢の口縁部である。26、27は深鉢の口縁部で、上下2段の杵状文が施されるようである。29は底部である。平底を呈し、外面はケズリが施される。30は弥生土器である。

## 2. まとめ

北側調査区については、今回の調査では遺構は検出されず、遺物も25トレンチでごくわずかに出土したのみであった。24トレンチでソフトロームが検出されなかったことから、おそらく大きな土地改変を受けているものと思われる。南側調査区については、縄文時代の遺構は検出されなかったものの、新期テフラが確認されたことから、縄文時代の土層が良好に残存していることが確認された。また西側隣接地で堀之内式、加曾利B式を主体とする土器が多量に採集されており、一部全体像が復元できる土器もあることから、この周辺にこの時期の遺構が展開している可能性がある。

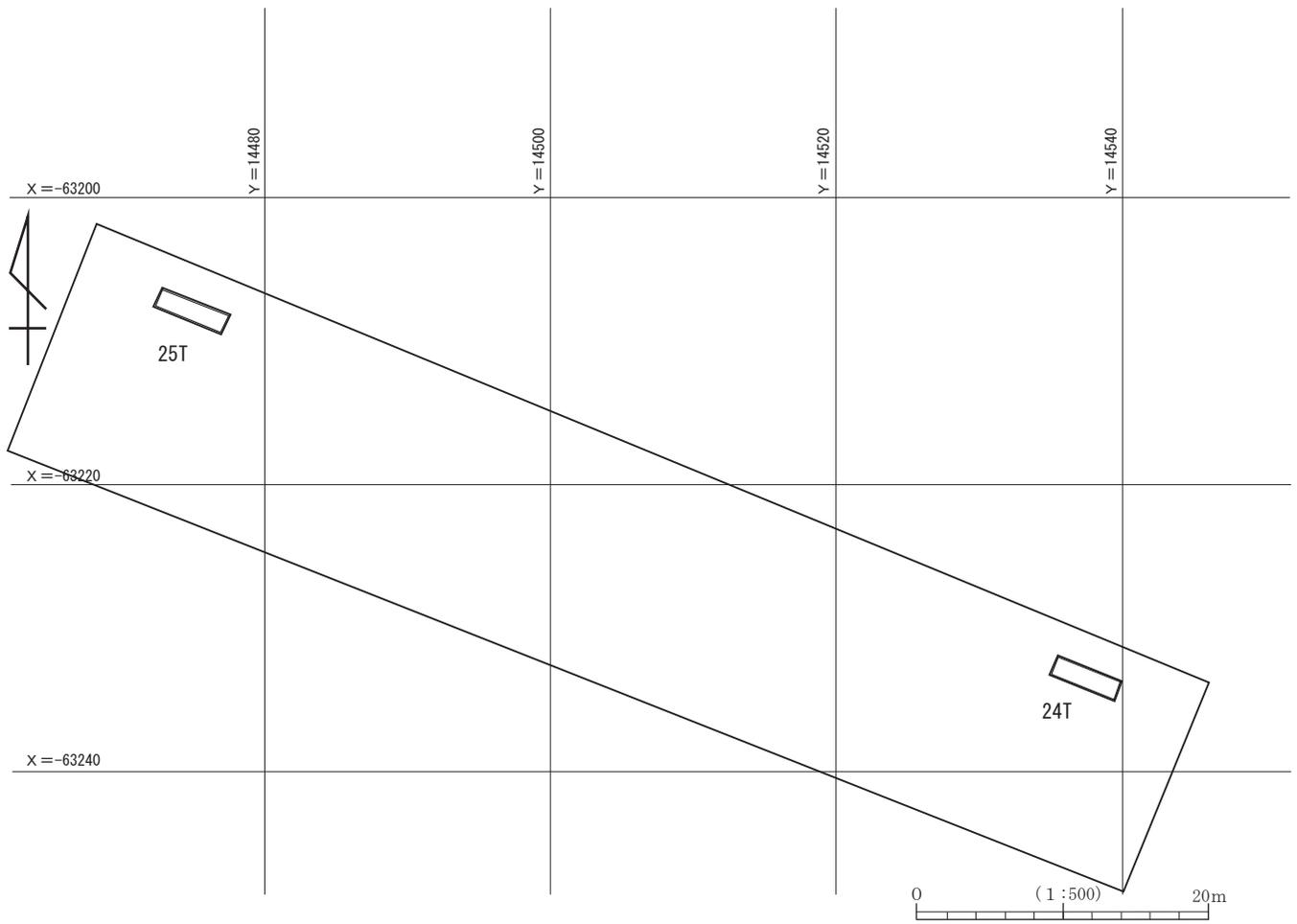
表1 山野貝塚(4)出土遺物及び周辺採集遺物重量一覧表

トレンチ名	堀之内		加曾利B		曾谷		安行1		安行2		安行3a		安行3b	
	(点)	(g)	(点)	(g)	(点)	(g)	(点)	(g)	(点)	(g)	(点)	(g)	(点)	(g)
25T							3	10.88						
26T			1	12.44										
27T	6	94.48	8	199.63					1	13.63				
28T	2	40.58	7	163.54										
トレンチ計	8	135.06	16	375.61	0	0	3	10.88	1	13.63	0	0	0	0
周辺採集遺物		965.28		1506.98		16.03		193.31						517.87

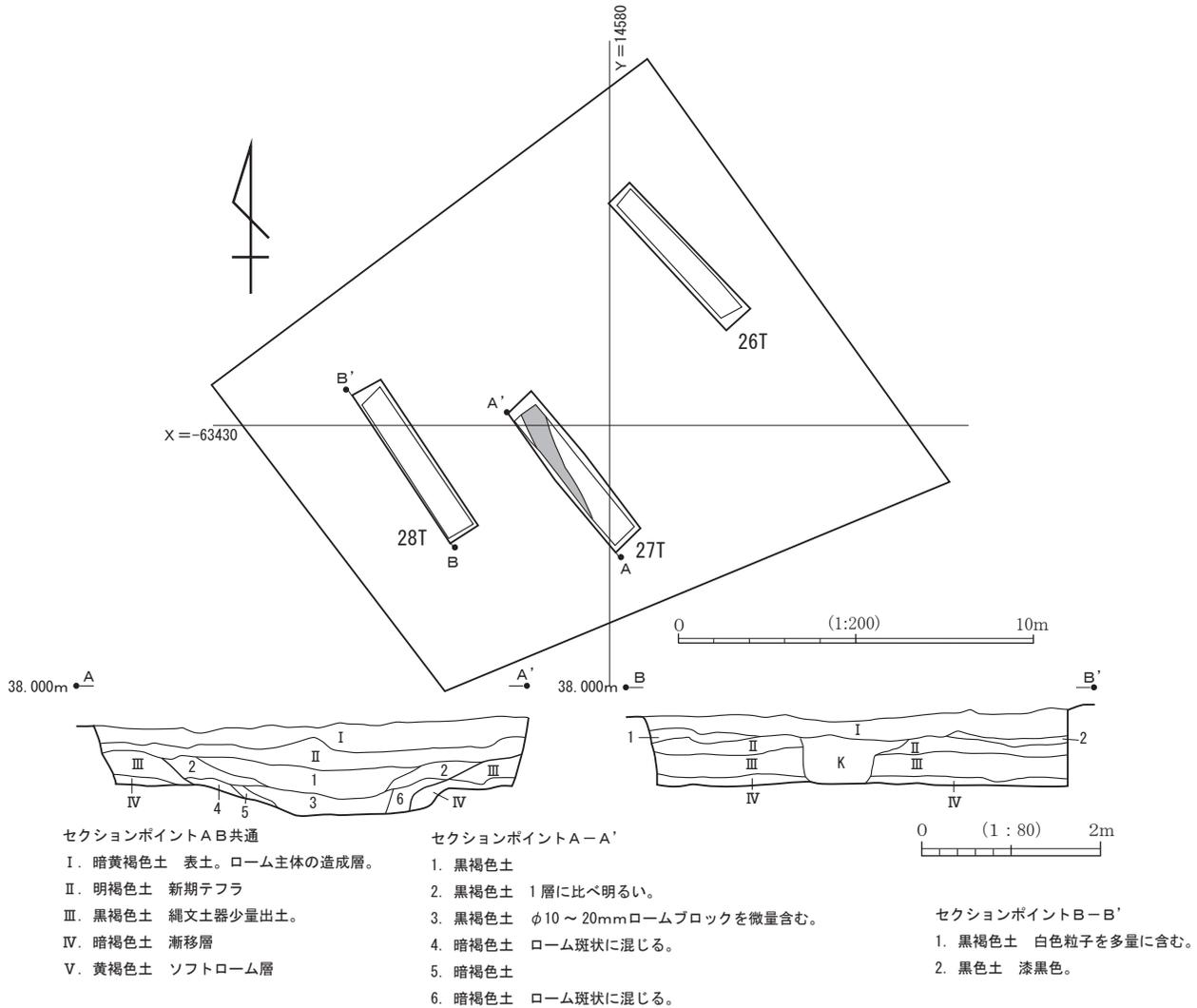
トレンチ名	縄文		紐縄条		紐条		条		不明		底部		弥生土器		合計	
	(点)	(g)	(点)	(g)	(点)	(g)	(点)	(g)	(点)	(g)	(点)	(g)	(点)	(g)	(点)	(g)
25T															3	13.88
26T							2	125.01							3	13.44
27T					1	22.43			13	43.53					29	322.74
28T															9	213.12
トレンチ計	0	0	0	0	1	22.43	2	125.01	13	43.53	0	0	0	0	44	563.18
周辺採集遺物		1367.14		1369.82		110.22		316.05		1385.79		998.16		7.92		8856.95

凡例

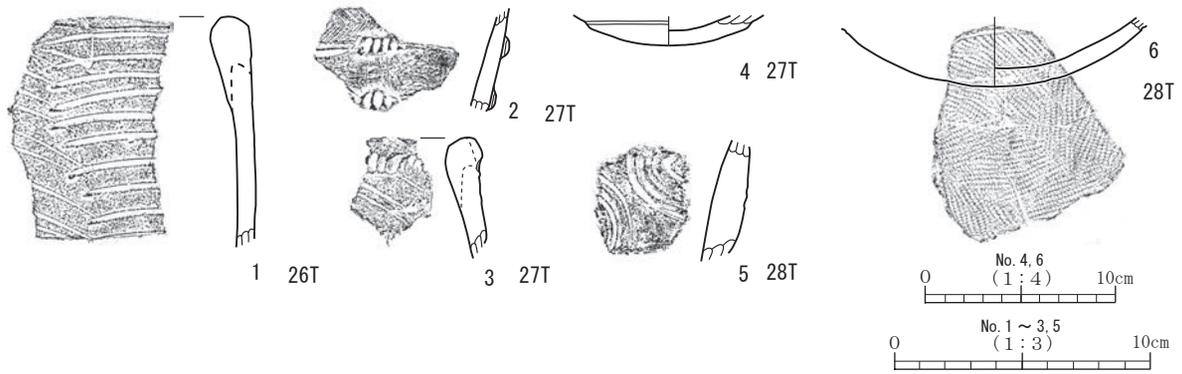
縄：縄文、紐：紐線文、条：条線文



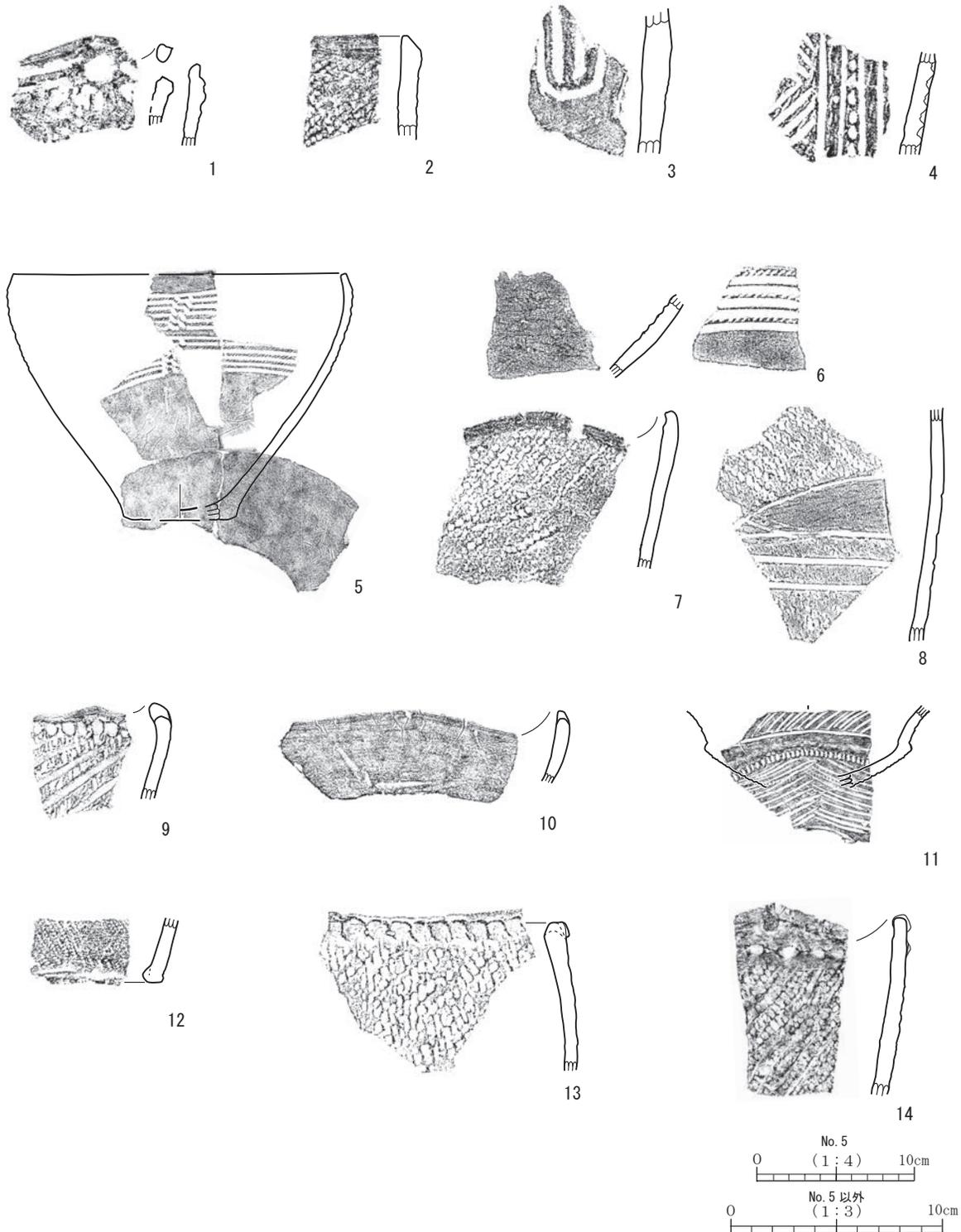
第9図 山野貝塚（4）遺構確認状況図（1）



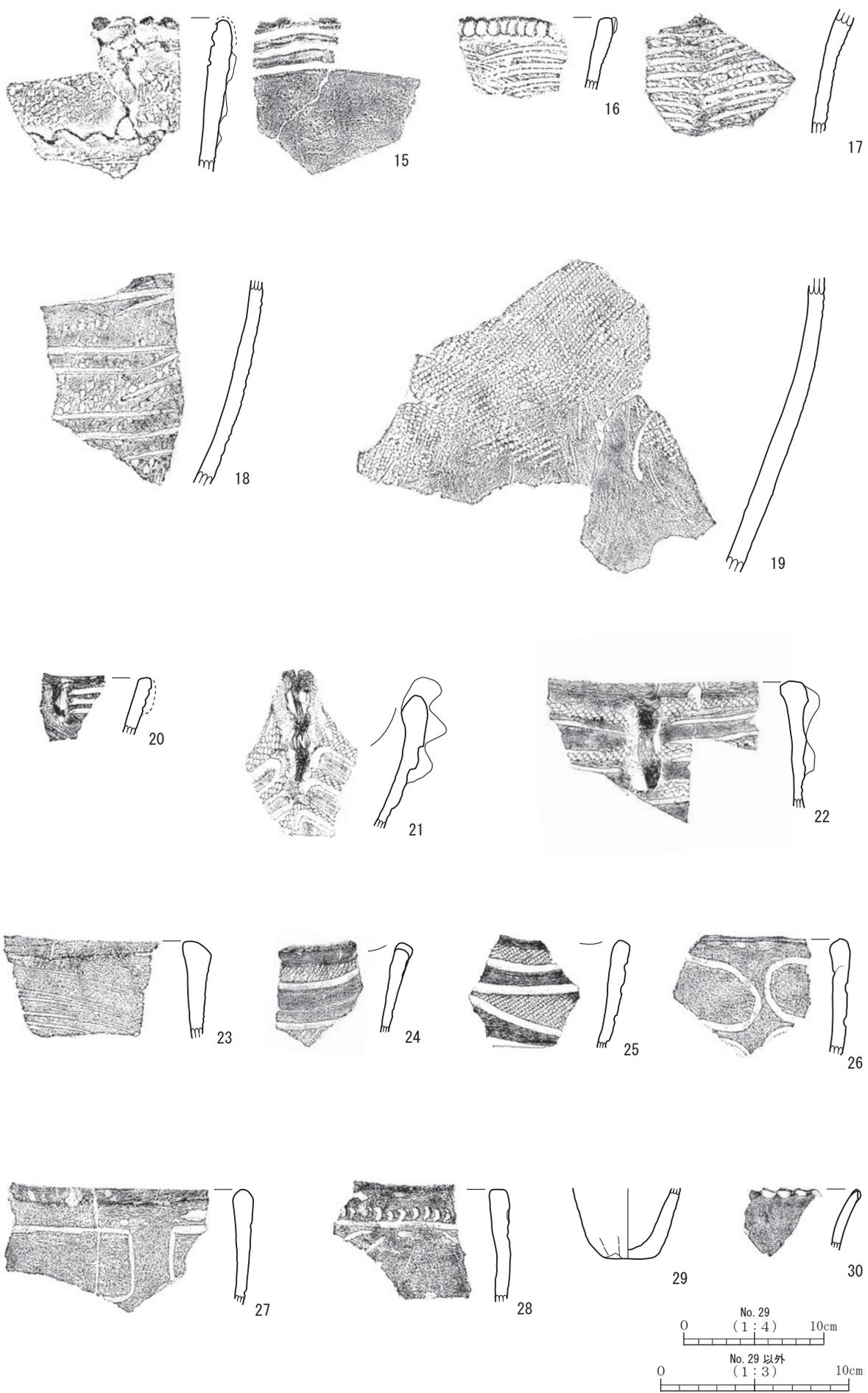
第10図 山野貝塚（4）遺構確認状況図（2）及びトレンチ断面図



第11図 山野貝塚(4) トレンチ出土遺物実測図



第12図 山野貝塚(4) 周辺採集遺物実測図(1)



第13图 山野貝塚(4)周边採集遺物実測图(2)

## 第6章 中六遺跡第17次調査

### 1. 調査の概要(第2・14・15図、図版4・9)

調査方法 調査は、宅地造成事業に伴い5,133㎡を調査対象として実施した。確認調査トレンチは、世界測地系に基づく座標に沿って打設した方眼杭を基に、南北5m間隔、東西10m間隔で2×5mの面積を基準として設定した。作物が植わっていた調査区東側については可能な箇所にトレンチを設定した。また、樹木が植えられていた調査区北東隅についてはトレンチを設定できなかった。トレンチの掘削は重機により行い、遺構確認作業は人力により行った。遺構が確認されなかったトレンチの周辺については、幅0.5mを基準とするトレンチを追加設定し、人力で掘削及び遺構確認作業を行った。遺構確認面はソフトローム漸移層とした。

遺構・遺物 調査区は北から南に向かって緩やかに傾斜する。検出された遺構は、縄文時代早期の炉穴1基、古墳時代前期の竪穴住居8軒である。

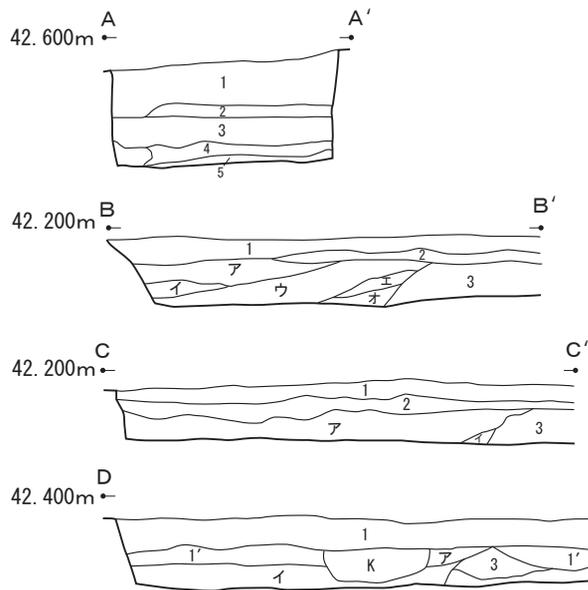
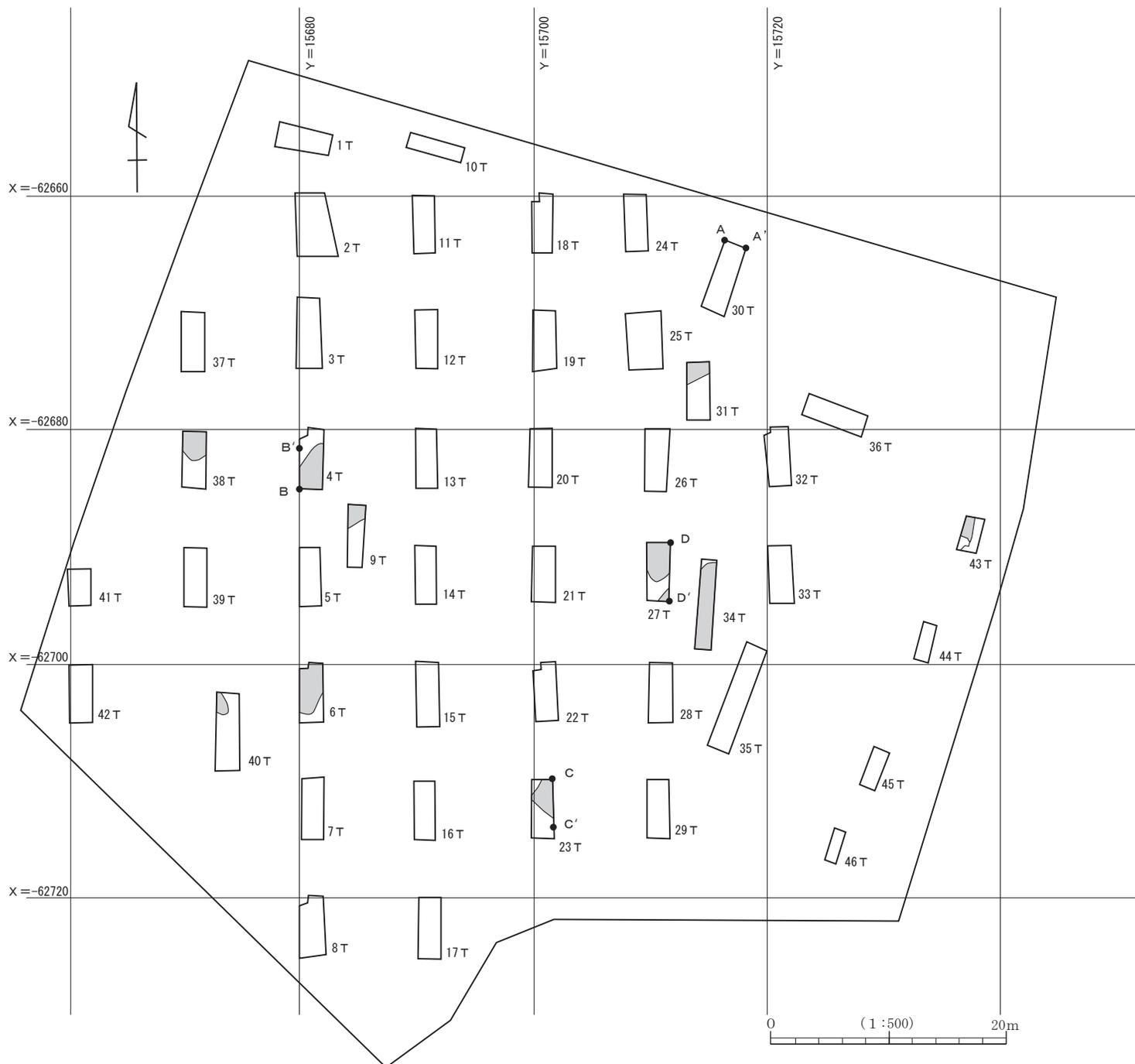
縄文時代早期の炉穴は40トレンチで1基検出された。古墳時代前期の竪穴住居は調査区中央の遺構未検出部分を挟んだ東側で5軒、西側で3軒検出された。これまでの調査と同様に3層の旧表土を掘り込む形で住居が形成されている。また、主軸方向もこれまでの調査と同様に北西－南東の方向を示す。27トレンチ南東隅で検出された竪穴住居の覆土上層からは、器台の脚部が出土した。

遺物は、縄文時代早期の土器106.15g、石鏃1点、礫器1点、磨石1点、古墳時代前期の土師器1,735.91g出土した。縄文時代早期の土器の内訳は、撚糸文土器38.95g、沈線文土器38.51g、繊維入り無文土器28.69gである。縄文時代早期の出土遺物は少なく、分布も散漫である。古墳時代前期の土師器は、遺構検出トレンチからの出土量が多いが、遺構が検出されていない45トレンチでも比較的多く出土している。

1は撚糸文土器の口縁部である。不明瞭ながら撚糸Rが縦位に施される。稻荷台式に相当か。2は沈線文土器の底部である。尖底を呈し、太い沈線が横位に巡るようである。3は繊維入り無文土器の胴部である。表面は無文で裏面は横位に擦痕が施される。4は黒曜石製の石鏃である。黒曜石の扁平礫もしくは礫面の残存する剥片を素材とし、周縁から微細な調整を施し、やや凹基の三角形を呈する。図上裏面中央に礫面が残存する。重さ0.79g。5は砂岩製の礫器である。砂岩の扁平礫を素材とし、図上下側の裏面からの剥離により刃部が形成される。裏面側からの加力により斜めに折断する。重さ35.96g。6は安山岩製の磨石である。2点接合しほぼ完形となるが、一方は20トレンチから出土したのに対し、もう一方は表採である。安山岩の扁平礫を素材とし、両面及び側面に敲打を施し略円形を呈する。斜方向に割れ2分割する。7は古墳時代前期土師器の器台脚部である。外面は縦位ハケメ調整後ほぼ全面を縦位にミガキを施す。内面は全体的に横位のハケメ調整が施される。焼成前に3箇所の穿孔が施される。

### 2. まとめ

第17次調査区は、北側の第12次調査区と西側の第14次調査区、南側の第2次及び9・10次調査区に挟まれた箇所に位置する。縄文時代早期の遺構・遺物については、周囲の調査区でもあまり検出されておらず、本調査区でも炉穴1基が検出されたのみで、他の調査区の状況と符合する。古墳時代前期の竪穴住居については、住居跡が1軒検出された第9・10次調査区の北側が集落の南限と考えられることから、そこを繋ぐ形で集落が展開していることが判明した。



セクションポイントA~D共通

1. 暗黒灰色土 耕作土。
2. 黒色土 赤色スコリア(微小)少量、白色粒子少量含む。
3. 黒褐色土 旧表土。φ1mm ローム粒微量、テフラ若干斑状に混じる。
4. 褐色土 ソフトローム層との漸移層。
5. 黄褐色土 ソフトローム層。

セクションポイントB-B'

- ア. 黒褐色土
- イ. 暗褐色土
- ウ. 暗褐色土 ローム粒多量、φ2~5mm ローム粒少量含む。
- エ. 暗褐色土 ローム粒多量、φ30mm ロームブロック少量含む。
- オ. 黒褐色土

セクションポイントC-C'

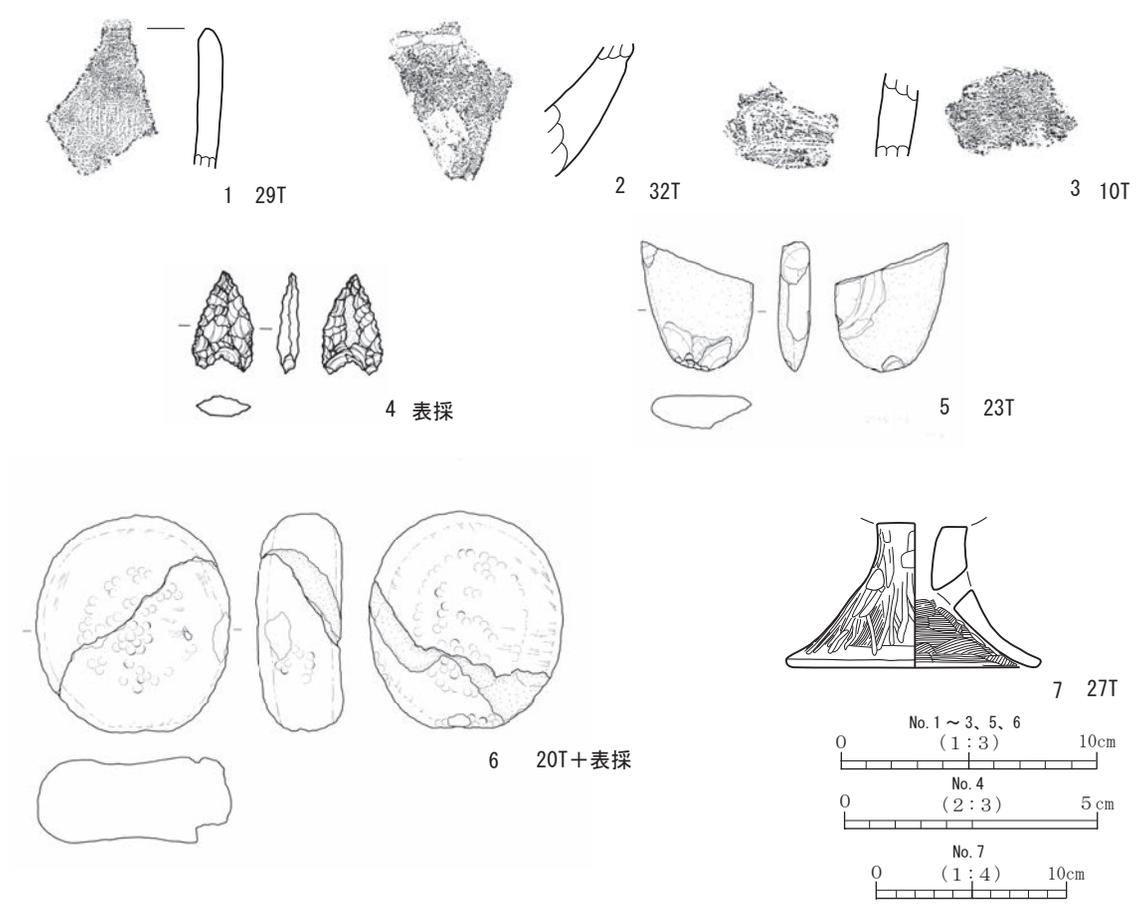
- ア. 暗褐色土 ローム粒多量、φ2~5mm ローム粒少量含む。下部ロームブロック多い。
- イ. 暗褐色土 ローム粒少量含む。

セクションポイントD-D'

- ア. 黒褐色土
- イ. 黒褐色土 ローム粒微量含む。
- ウ. 黒褐色土
- エ. 暗褐色土 φ5~7mm ロームブロック少量含む。

第15図7

第14図 中六遺跡(17) 遺構確認状況図及びトレンチ断面図



第15図 中六遺跡 (17) 出土遺物実測図

## 第7章 山野貝塚第5次調査

### 1. 調査の概要(第4・5・16～18図、図版5、9～11)

調査方法 調査は遺跡の保存目的の範囲確認調査である。調査対象地179㎡のうち、18.7㎡について調査を実施した。調査は、第4次調査で確認できなかった貝層北西側への集落の展開を把握することを目的として実施した。遺跡の大部分が畑として利用されているため、調査時に耕作されておらず、かつ地権者の同意がいただけた箇所を調査範囲として設定した。その結果、貝層隣接地に幅2m、長さ8mの29トレンチを設定し、調査の進展に合わせて拡張、トレンチの追加設定を行った。トレンチの掘削及び遺構確認作業は人力により行った。遺構確認面はソフトローム層とした。遺構確認後、千葉県文化財課と協議した結果、遺構の内容把握を優先するため、遺構精査を実施した。

なお、調査区北東側の近接地で採集された遺物に関しても本調査区出土遺物と併せて報告する。縄文土器は、時期のわかる精製土器については型式分類した一方、いわゆる粗製土器については文様構成で分類し、それぞれ重量を計測し出土傾向を把握した。ただし、出土土器は小破片で磨滅しているものが多く時期比定が困難であったので、大まかな時期の把握とした。

遺構・遺物 調査区は現在畑として利用されている。調査前の地表面に土器の散布が認められたので、目につくものについては採集した。29トレンチは、20cmほどの耕作土中からも多量の土器が出土し、耕作土を除去したところで、地山ローム層と見間違えるほどのローム質土が検出された。当初は縄文時代の盛土層の可能性も考慮したが、ローム質土を20cmほど掘り下げて検出された黒色土中から現代の空き缶やビニール袋が発見されたことにより、ローム質土が現代の二次堆積土であることが判明した。調査区の大部分がこのような攪乱を受けていたが、調査区中央の南側に一部残存していたソフトローム層の面まで全面掘り下げたところ、数箇所に落ち込みが認められた。これらの性格把握を目的として、攪乱を受けている部分以外を精査したところ、中央部はわずかな窪み(イ層)で、表土や攪乱部分と比べると遺物の出土量はごくわずかであった。一方北西側の落ち込みは、30～32トレンチを追加調査したことにより、北東-南西方向に走る溝状遺構であることが判明した。覆土からは多量の縄文土器が出土するものの、前述したローム質土を含む土で人為的に埋め戻している様子が認められ、さらに掘り方も明確なことから近現代に掘り込まれたものだと判断した。

遺物は、本調査で出土した遺物と北東側近接地で採集された遺物に分けて報告する。

各トレンチの遺物出土量及び周辺採集遺物の採集量は表2のとおりである。トレンチ出土遺物はわずかな調査面積ながら整理箱4箱を数え、重量も約35kgを測る。しかしその大部分は、著しく磨滅した小破片であり、全出土量のおよそ半分は縄文土器ではあるものの時期不明であった。時期がわかるものとしては加曽利B式が圧倒的に多く、少量ながら晩期安行3b式までの土器が継続的に出土した。一方で、本遺跡で多く出土する堀之内式土器がほとんど含まれていない点は注目される。周辺採集遺物は本調査区から北東へ30mの道路を挟んだ反対側の畑で採集されたもので、堀之内式土器が大部分を占める。

1～8は加曽利B式土器で、いずれも加曽利B式の中で新しいものと考えられる。1は深鉢の口縁部で、単節RLを施した縄文帯を形成しその口縁部側に連続する刻みを施す。2も1と同様な構成をとるが、刻み下に沈線区画による無文帯が形成される。3は縄文ではなく斜沈線が施される。4は浅鉢の口縁部から頸部で、横位沈線区画の胴部に斜沈線が施される。5は波状口縁を呈する浅鉢の口縁部から底部付近である。頸部横位沈線下に斜沈線を施し口縁部に沿って連続する刻みが施される。6は加曽利Bから曾谷式にかけての

深鉢の胴部である。7は浅鉢の口縁部で口唇部に連続する刻みが施される。8は縄文帯の上方に連続する円形の刺突が施される。9・10は曾谷式の浅鉢と考えられる。9は円錐状の突起を貼り付け後、口縁部下の沈線及び口唇部の連続する刻みが施される。10は波状を呈する。口縁部の2条の沈線施文後単節LRが施される。11～13は加曾利B式に属する粗製土器である。14～18は後期安行式に属する土器である。14は内傾する口縁部で2条の縄文帯の下に三角形の連続する刻みが施される。15・16は波状口縁を呈する深鉢である。波頂部、波底部に瘤状の突起と豚鼻状の突起を貼り付ける。晩期安行a式に相当する可能性もある。17・18は粗製土器である。両方とも条線文を施し紐線文が貼り付けられる。19・20は晩期安行式の土器である。いずれも沈線に区画された縄文帯を有する。21は晩期の大洞系の土器である。シダ状文が施され表面が著しく研磨される。22は黒曜石製の石鎌である。素材は不明だが、周縁からの調整により凹基でやや丸みを帯びた形態を呈する。重さ1.53g。23は安山岩製の磨石である。安山岩の扁平礫を素材とし、周辺を敲打することにより略円形を呈する。図上の上下端からの敲打により表面が一部剥落している。

周辺採集遺物は14以外堀之内式土器である。1は外反する口縁から頸部で、頸部に細かな沈線が数条施される。2は口縁部の破片である。円孔文が施される。3は頸部から口縁部と考えられる。刻みが施される隆帯以上は無文帯となる一方隆帯下は縄文が施される。4はやや波状を呈する深鉢の口縁部である。波頂部が失われているが、波頂部下に円孔文が施され、円孔文から垂下する数条の沈線が引かれる。5はわずかに波状を呈する口縁部である。3個1対の刻みが施された隆帯が波頂部から放射状に貼り付けられる。6は縦位沈線施文後横位沈線が施される。7は深鉢の口縁部で、口唇部が欠損している。口縁部には数個の円孔文が施されたようである。8は単節RLが施文された口縁部である。9・10は太い沈線が施された深鉢胴部である。11は単節RL施文後横位に連続する太い沈線を施す。12は斜方向の沈線が密に施文される。13は単節RLが施される。14は条線文を有する。加曾利B式以降の土器と考えられる。

## 2. まとめ

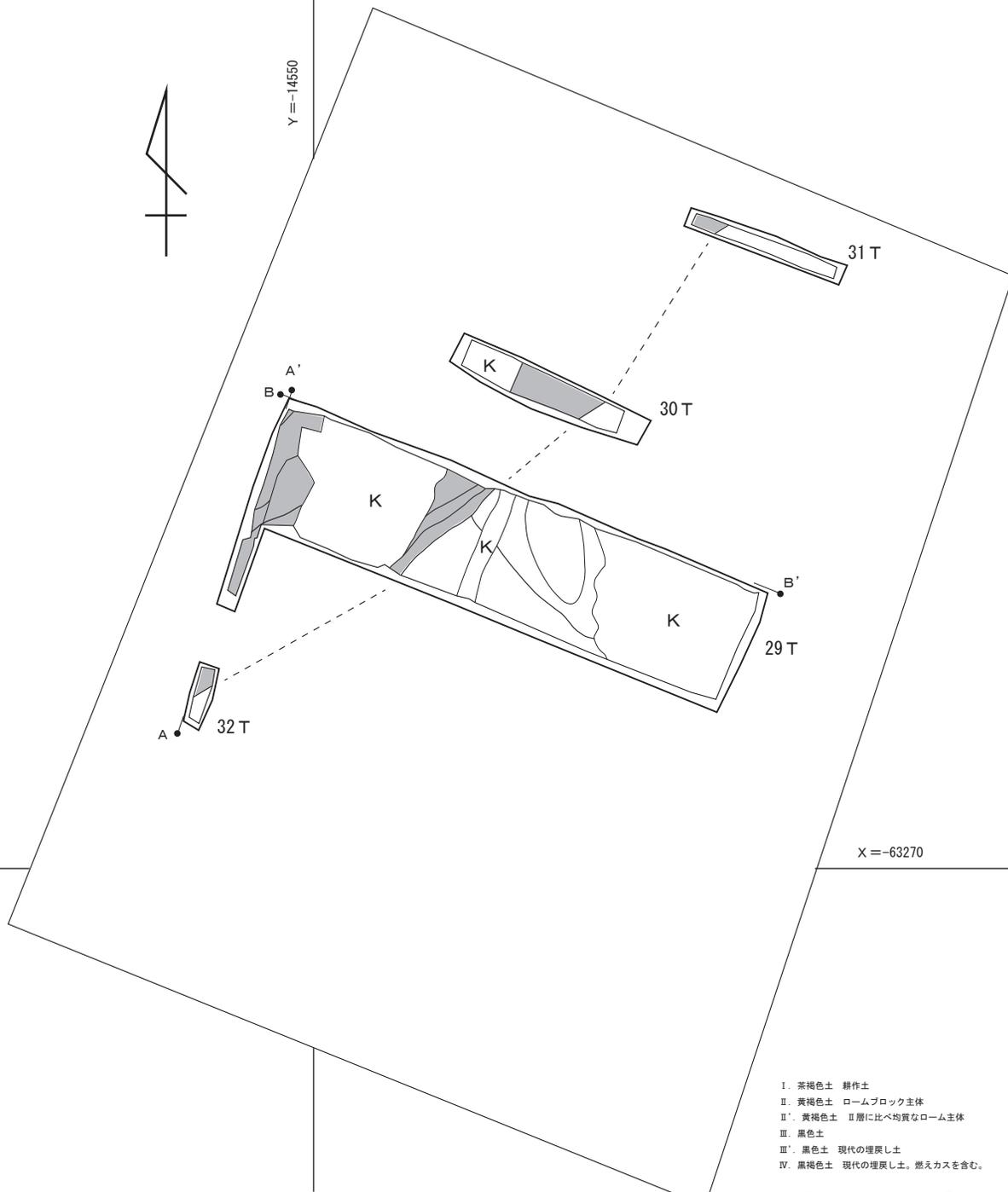
本調査区の大部分は攪乱を受けており、縄文時代の遺構は確認できなかった。貝層北西側は南西から北東方向に向かって緩やかに傾斜しており、本調査区の地表面と第4次調査区24トレンチの地表面の比高差は約60cmを測る。また、本調査時の聞き取りでは、12年ほど前に畑として使用する段階で大きく土地改変を受けていたとのことであった。これらのことから、貝層北西側は現代の土地改変により縄文時代の遺構が残存している可能性が極めて低いといえる。しかし、耕作土及び攪乱からは多量の土器が出土しており、その時期も加曾利B式が主体となっていることから、元々この場所に加曾利B式期の遺構が存在していたか、あるいは遺跡内のどこか他の部分から運び込まれた土で埋め戻された可能性もある。今後も地権者などに聞き取り調査を実施し、現代の土地改変がどのように行われたかを明らかにする必要があるだろう。

表2 山野貝塚(5)出土遺物及び周辺採集遺物重量一覧表

遺構名	堀之内	加曾利 B	曾谷	後期 安行	晚期 安行	大洞系	紐縄条	紐条	条	底部	不明	陶磁器	瓦	石器 (g)			総合計	縄文土器 合計
	(g)	(g)	(g)	(g)	(g)	(g)	(g)	(g)	(g)	(g)	(g)	(g)	石鏃	皿	磨石			
表探		282.93		72.31	18		317.25	209.93	305.94	26.8	1222.22				440.28	382.02	3277.68	2455.38
29T 表土		337.73	56.71	111.48	29.33	39.5	260.23	289.03	691.62		2466.23						4281.86	4281.86
29T 近現代溝 状遺構上段	8.4	321.22	90.39	155.03	4.49		655.65	516.87	597.4	117.61	2379.89						4846.95	4846.95
29T 近現代溝 状遺構下段	24.19	279.83		33.24			430.6	204.43	184.79	90.5	1074.74						2322.32	2322.32
29T 北側拡張区		53.04	30.72		20.63		64.5	128.93	118.14		352.3						768.26	768.26
29Tトレンチ 中央攪乱		84.27	12.19				142.15	30.71	78.12		197.85						545.29	545.29
29T 南側攪乱		1345.04	83.91	265.62	129.41		1118.77	599.54	1381.61	98.22	4086.18	5.39		1.53	261.14		9376.36	9108.3
29T 北側攪乱	22.77	655.32	124.98	173.98	165.81		918.44	517.65	844.3	331.61	2268.56	12.77					6036.19	6023.42
29T イ層	45.04	165.95	42.97	99.71	61.25		194.82	107.5	163.66	10.69	401.45						1293.04	1293.04
30T- 1	51	183.9	19.95	49.64			274.62	183.92	148.79		730.56						1642.38	1642.38
31T		43.63					9.23	26.73	51.77	9.95	91.18						232.49	232.49
32T		65.91					85.53	35.81	169.1	12.47	161.03						529.85	529.85
合計	151.4	3818.77	461.82	961.01	428.92	39.5	4471.79	2851.05	4735.24	697.85	15432.19	18.16	0	1.53	701.42	382.02	35152.67	34049.54
																	0	0
周辺採集 遺物	1227.11									91.97	24.21		65.07				1408.36	1343.29

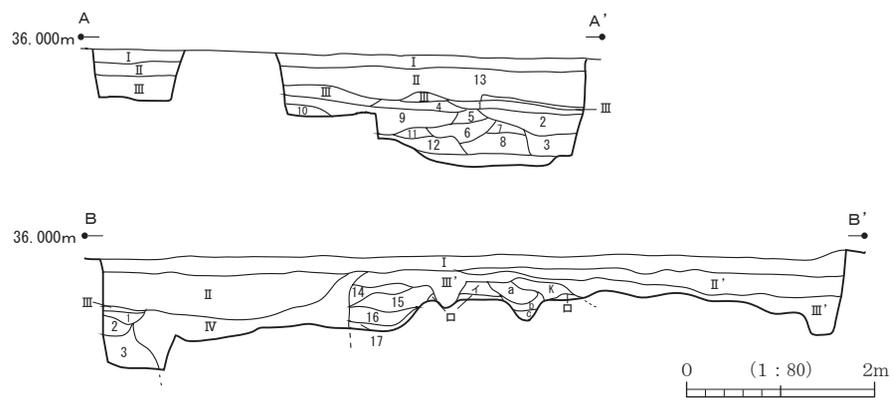
凡例

縄 : 縄文、紐 : 紐線文、条 : 条線文



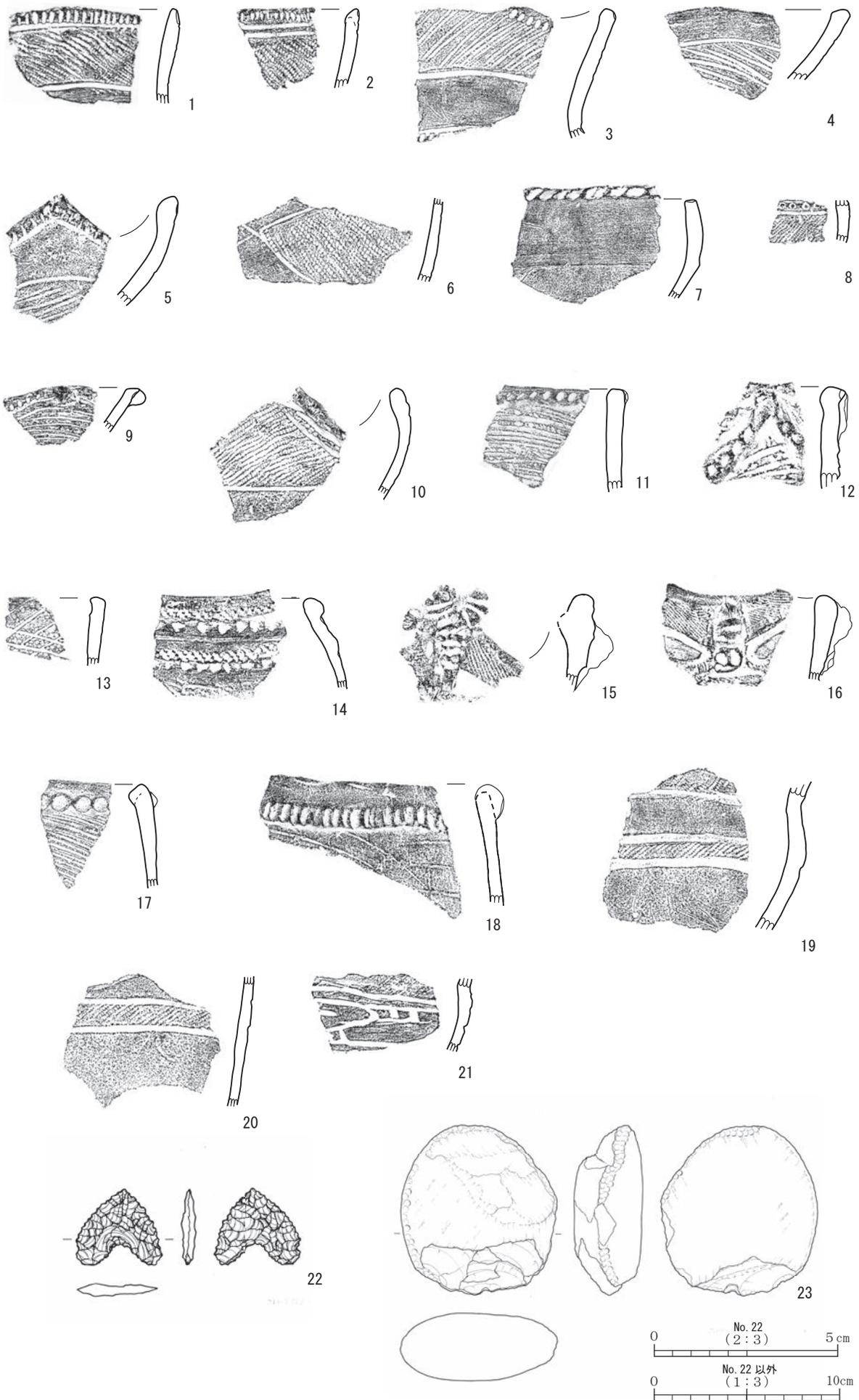
- I. 茶褐色土 耕作土
- II. 黄褐色土 ロームブロック主体
- II'. 黄褐色土 II層に比べ均質なローム主体
- III. 黒色土
- III'. 黒色土 現代の埋戻し土
- IV. 黒褐色土 現代の埋戻し土。燃えカスを含む。

- 1. 暗褐色土 φ1~3mmのローム粒を少量含む。
- 2. 暗褐色土 φ5mmのロームブロックを多量に含む。
- 3. 黒褐色土 肉眼で含有物ほとんど見られない。
- 4. 暗褐色土 ローム粒を少量含む。
- 5. 暗黄褐色土 ロームブロック斑状に混じる。
- 6. 暗黄褐色土 ロームブロック主体。地山と見間違えるほどロームの割合高い。
- 7. 暗褐色土 φ5~10mmのロームブロックを多量に含む。
- 8. 暗褐色土 7層に似るが粘性弱い。
- 9. 暗褐色土 φ3~5mmのローム粒を微量含む。
- 10. 暗褐色土 φ10mm ロームブロックを少量含む。
- 11. 暗黄褐色土 ロームブロック斑状に混じる。
- 12. 黒褐色土 φ10mmのロームブロックを少量含む。粘性著しく強い。
- 13. 暗褐色土 φ10~15mmのロームブロックを多量に含む。
- 14. 暗茶褐色土 φ5mmの暗褐色ブロックを多量に含む。ホソボソ。
- 15. 暗褐色土 φ5mm暗褐色ブロックを多量に含む。
- 16. 暗褐色土 φ1~3mmのローム粒を微量含む。
- 17. 暗褐色土 φ5~10mmのロームブロックを少量含む。

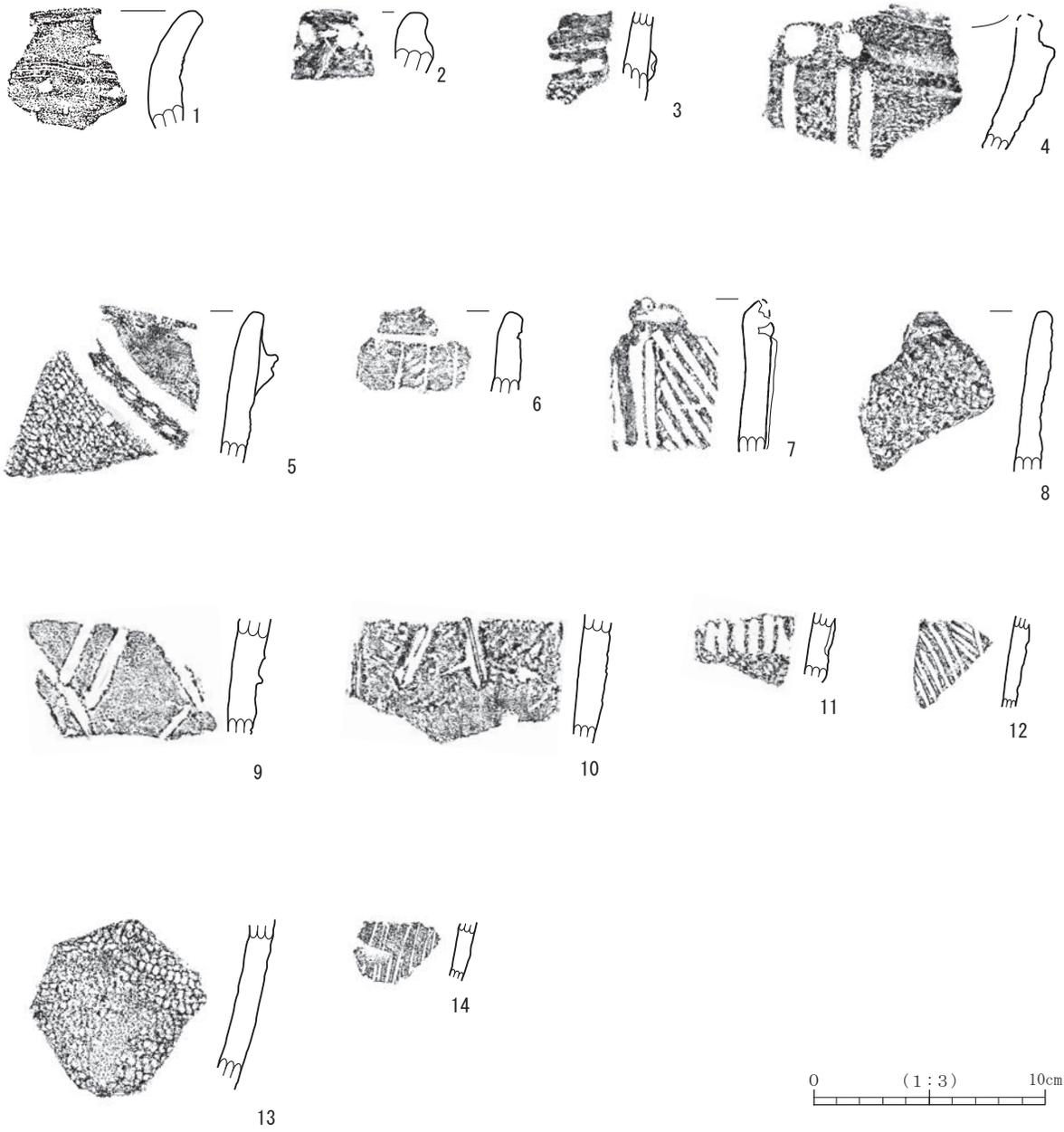


- a. 暗褐色土 φ1mmのローム粒を微量に含む。
- b. 明褐色土
- c. 明褐色土 φ1~3mmのローム粒を微量に含む。
- イ. 暗褐色土 唯一の自然堆積層。縄文時代の遺物は殆ど出土しない。
- ロ. 黄褐色土 ソフトローム層

第16図 山野貝塚（5）遺構確認状況図及びトレンチ断面図



第17図 山野貝塚 (5) トレンチ出土遺物実測図



第18図 山野貝塚(5)周辺採集遺物実測図



# 写真図版



図版1 中六遺跡 (15)



1. 調査前風景 (南西→)



2. 1トレンチ遺構確認状況 (北→)



3. 2トレンチ遺構確認状況 (南→)



4. 3トレンチ遺構確認状況 (南→)



5. 9トレンチ遺構確認状況 (北→)



6. 11トレンチ遺構確認状況 (北→)



7. 14トレンチ遺構確認状況 (南→)



8. 27トレンチ遺構確認状況 (南東→)

## 図版2 笠上A遺跡(1)



1. 遺跡遠景(北西→)



2. 調査前風景(北東→)



3. 1トレンチ遺構確認状況(南西→)



4. 1トレンチ遺構確認状況近景(南西→)



5. 1トレンチ土層断面(北東→)



6. 2トレンチ遺構確認状況(南西→)



7. 1・2トレンチ完掘状況(北東→)



8. 3トレンチ完掘状況(北東→)

図版3 山野貝塚(4)



1. 北側調査区調査前風景(北西→)



2. 24トレンチ完掘状況(北西→)



3. 25トレンチ完掘状況(南東→)



4. 南側調査区調査前風景(北→)



5. 26トレンチ完掘状況(北西→)



6. 27トレンチ遺構確認状況(北西→)



7. 28トレンチ完掘状況(北西→)



8. 28トレンチ土層断面(北→)

図版4 中六遺跡 (17)



1. 4トレンチ遺構確認状況 (北東→)



2. 6トレンチ遺構確認状況 (南→)



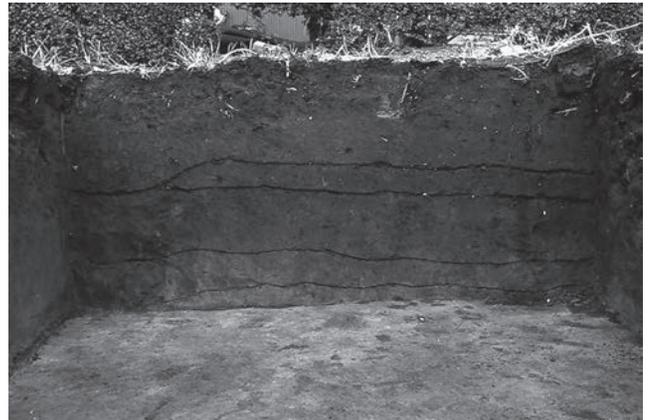
3. 23トレンチ遺構確認状況 (南西→)



4. 27トレンチ遺構確認状況 (北西→)



5. 27トレンチ遺物出土状況 (北西→)



6. 30トレンチ土層断面 (南→)



7. 38トレンチ遺構確認状況 (南→)



8. 43トレンチ遺構確認状況 (東→)

図版5 山野貝塚(5)



1. 調査前風景(北→)



2. 29トレンチ遺構確認状況(南東→)



3. 29トレンチ溝状遺構(南西→)



4. 29トレンチ溝状遺構(南→)



5. 29トレンチ北西壁土層断面(北東→)



6. 30トレンチ遺構確認状況(南東→)

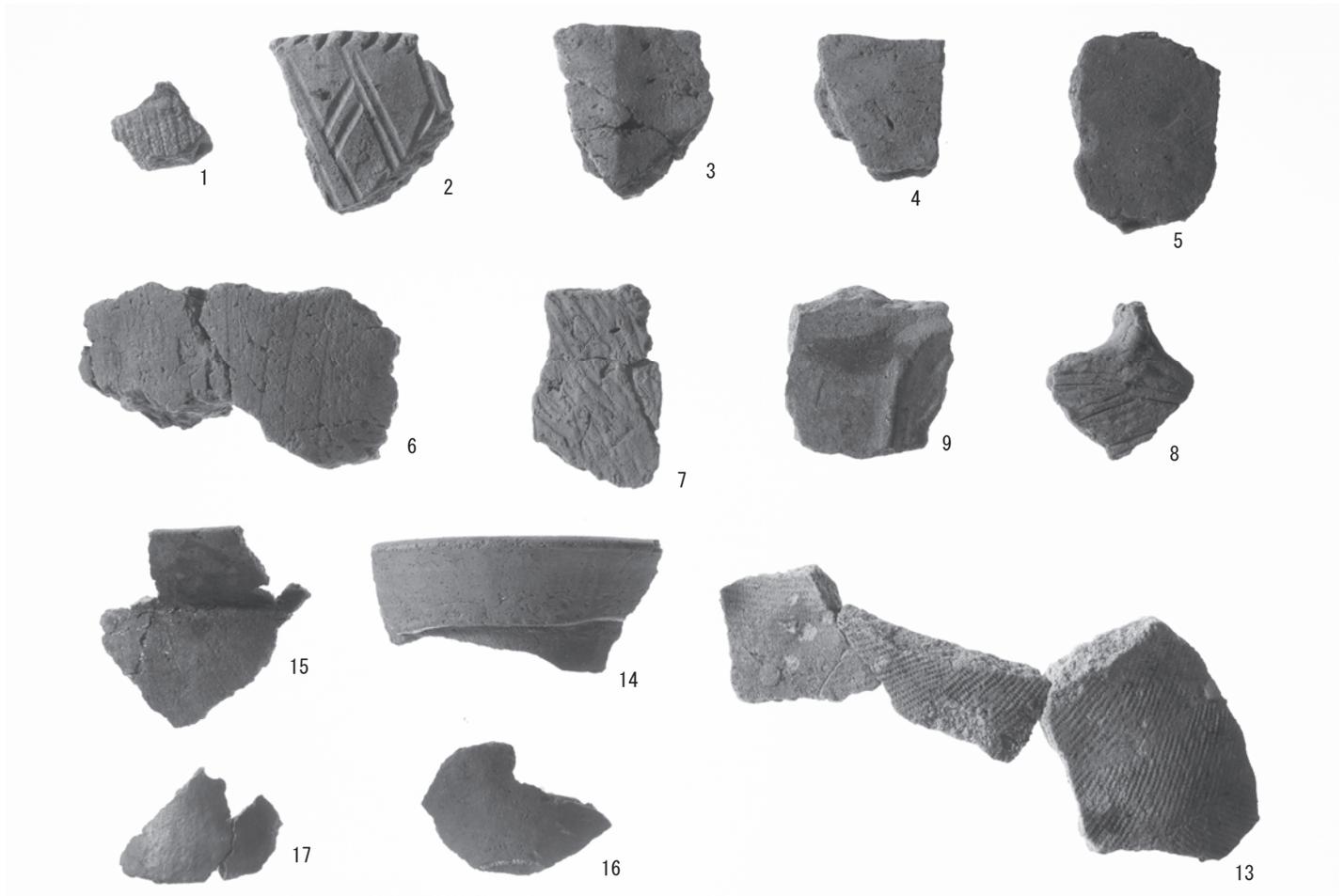


7. 31トレンチ遺構確認状況(南東→)

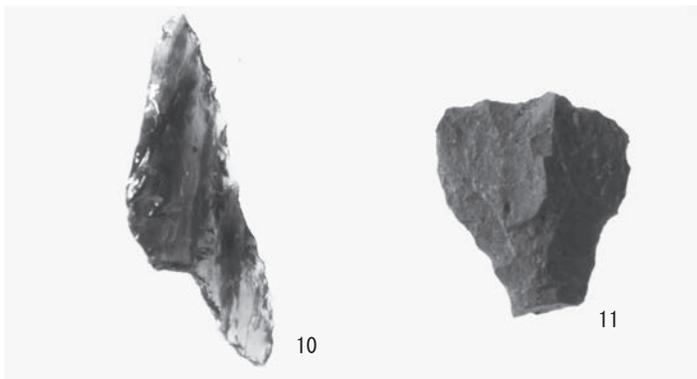


8. 32トレンチ遺構確認状況(南西→)

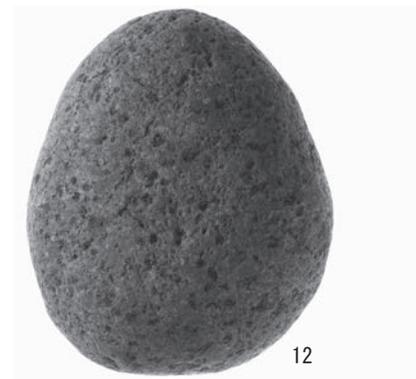
図版 6



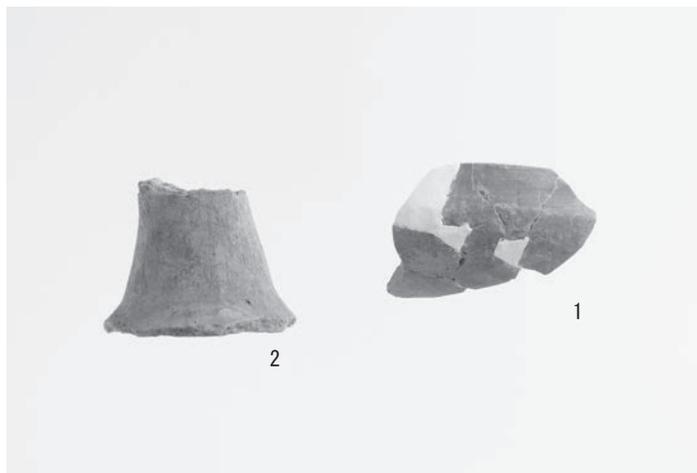
1. 中六遺跡 (15) トレンチ出土土器



2. 中六遺跡 (15) トレンチ出土剥片石器



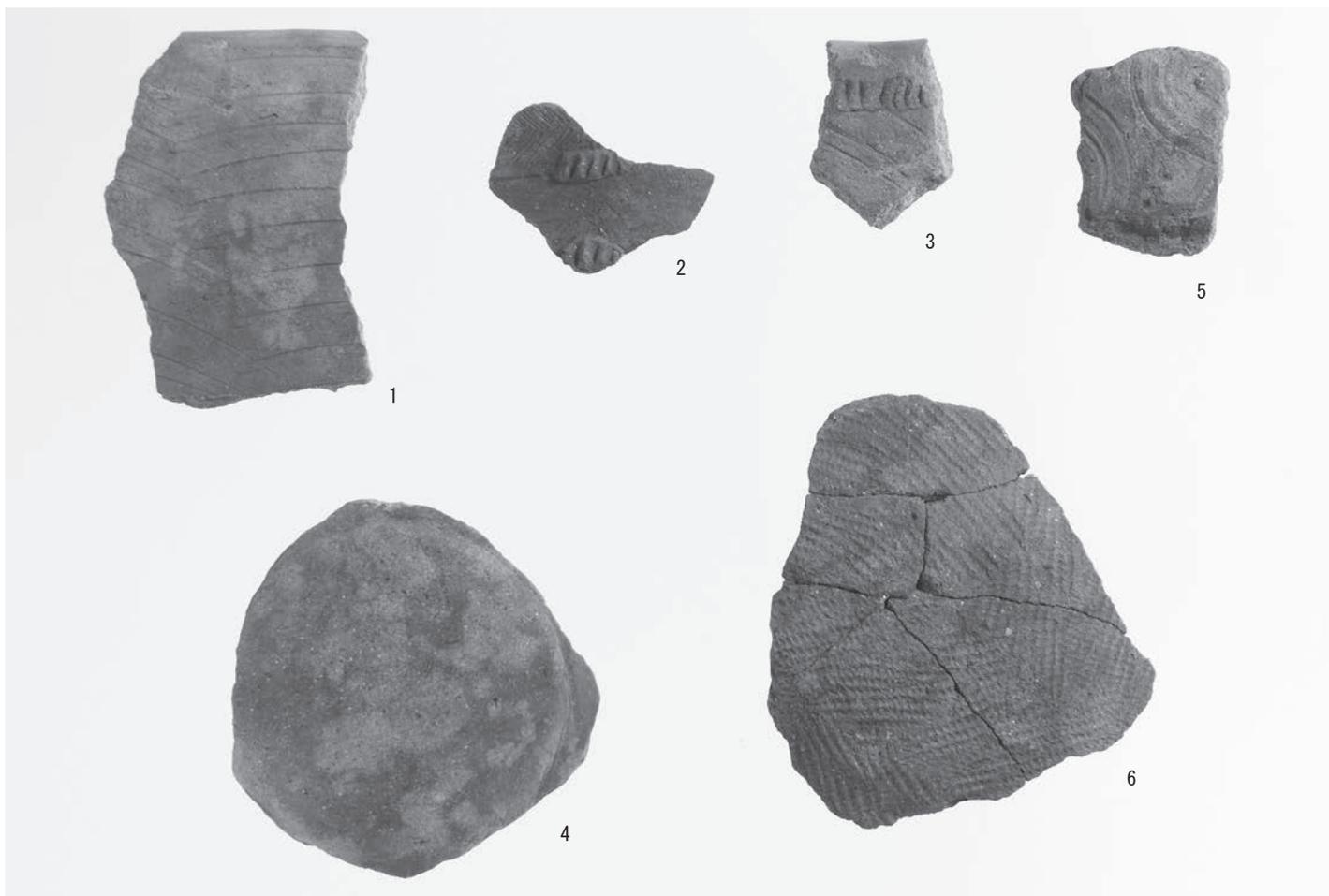
3. 中六遺跡 (15) トレンチ出土磨石



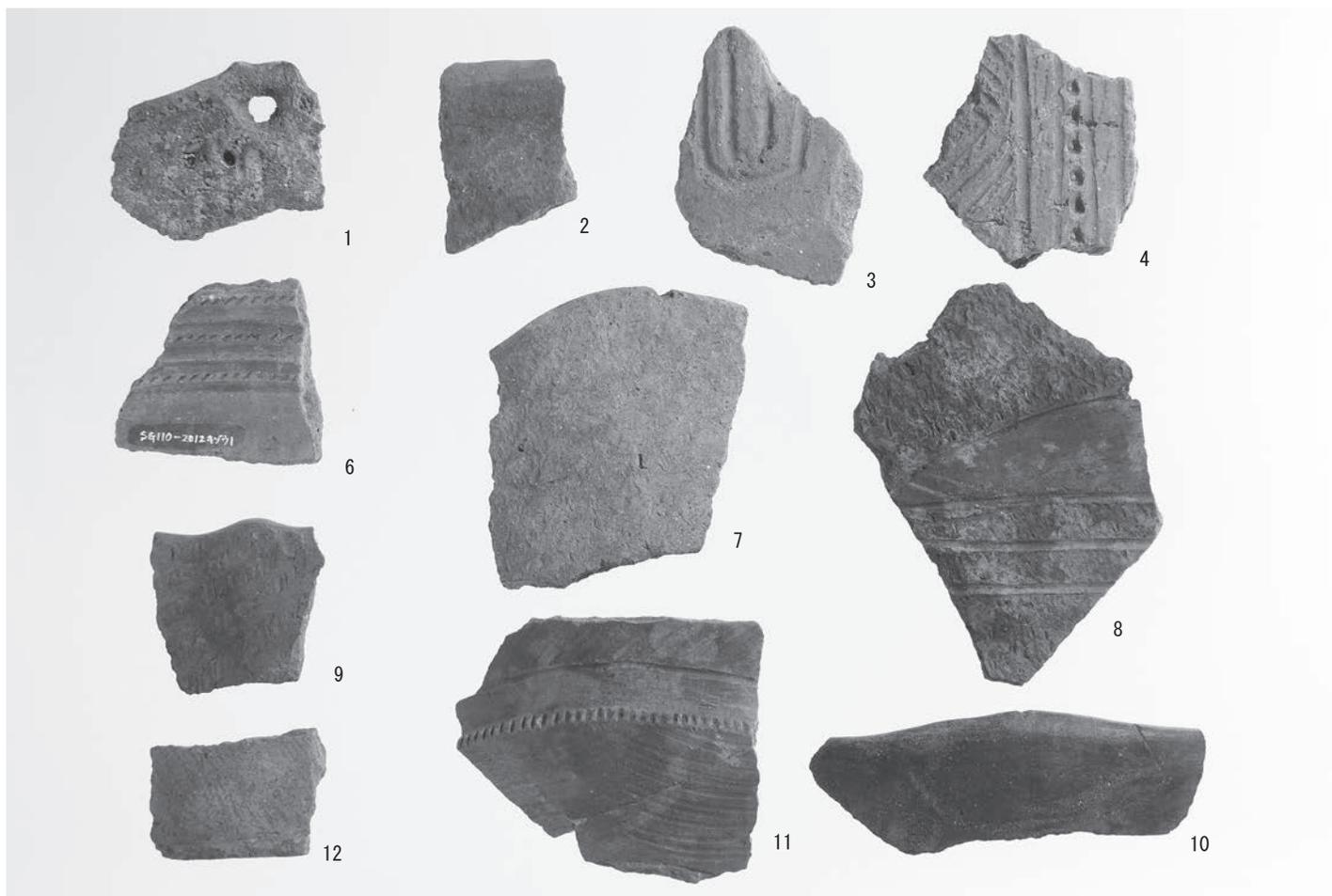
4. 笠上A遺跡 (1) トレンチ出土土器



5. 山野貝塚 (4) 周辺採集遺物 (第12図5)

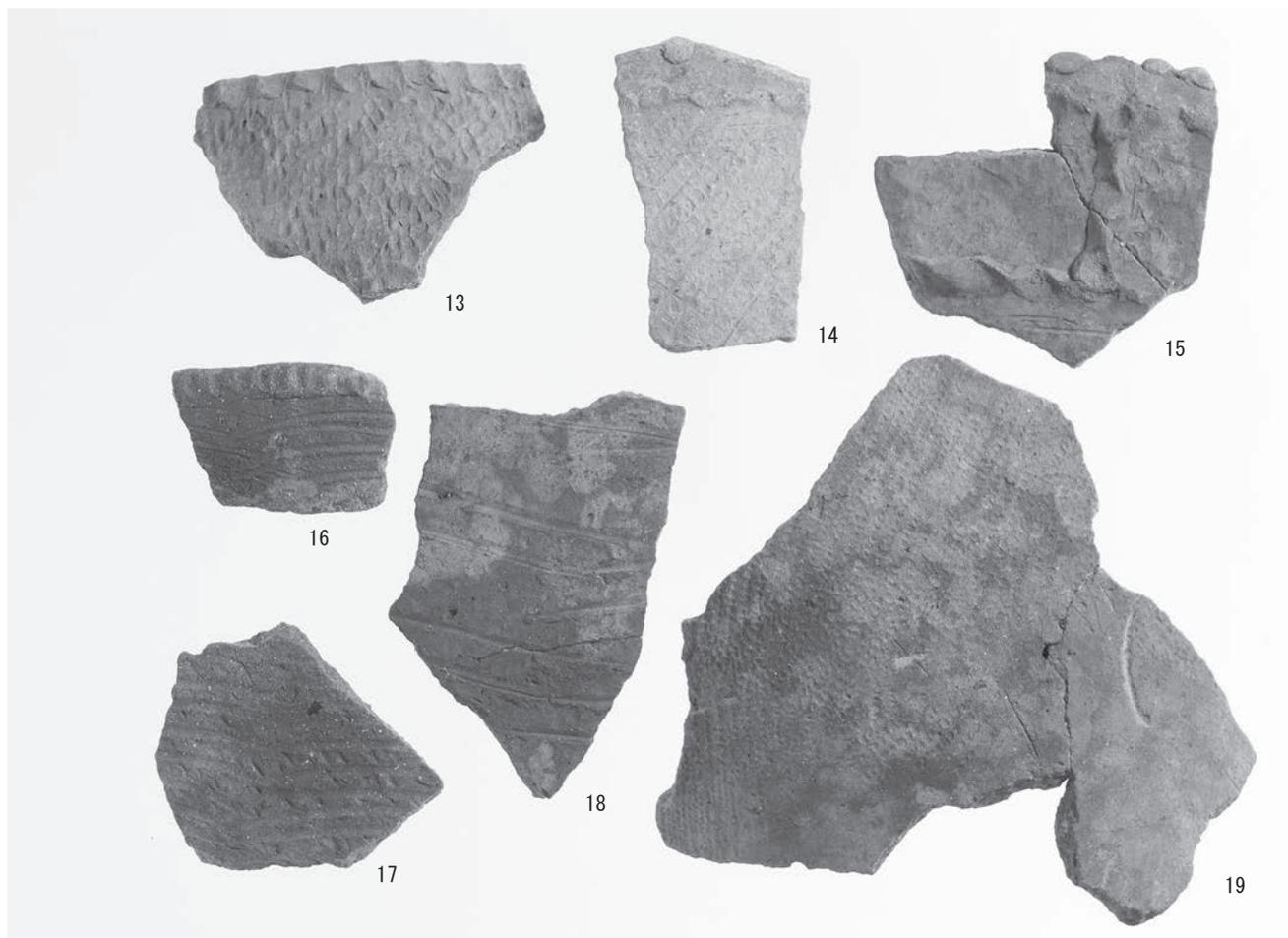


1. 山野貝塚（4）トレンチ出土遺物

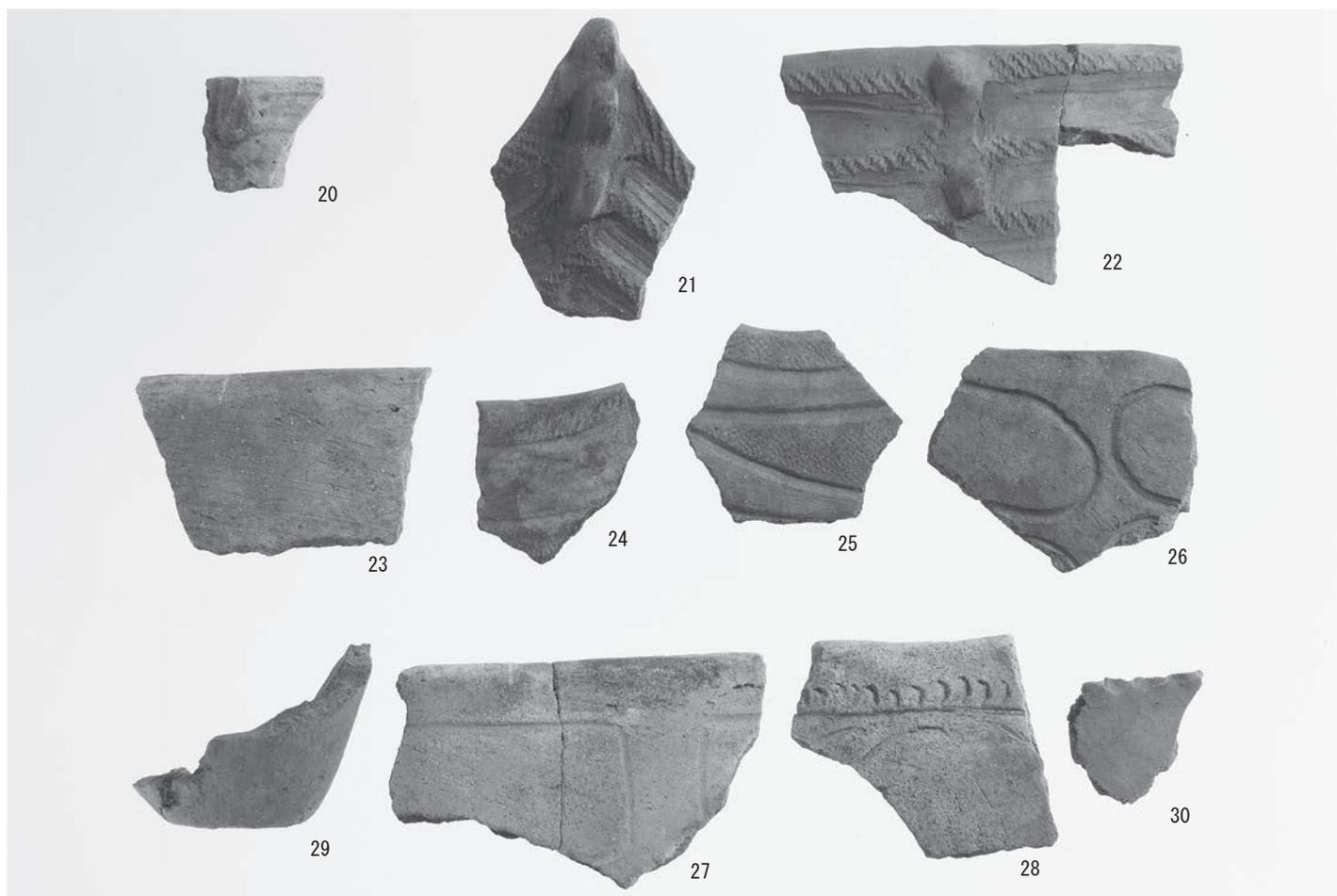


2. 山野貝塚（4）周辺採集遺物（1）

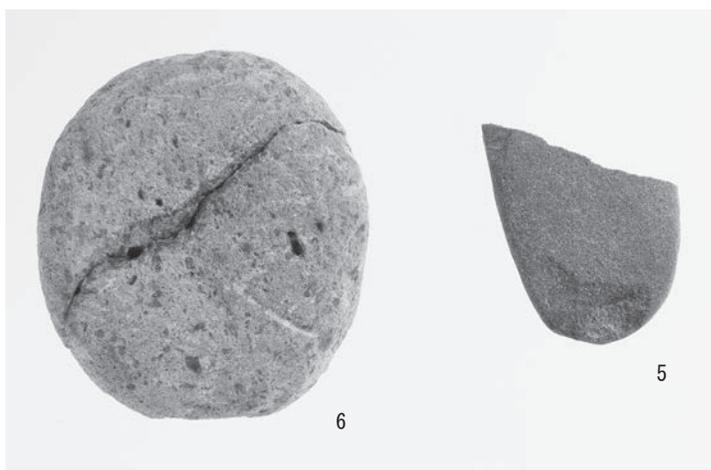
图版 8



1. 山野貝塚（4）周辺採集遺物（2）



2. 山野貝塚（4）周辺採集遺物（3）

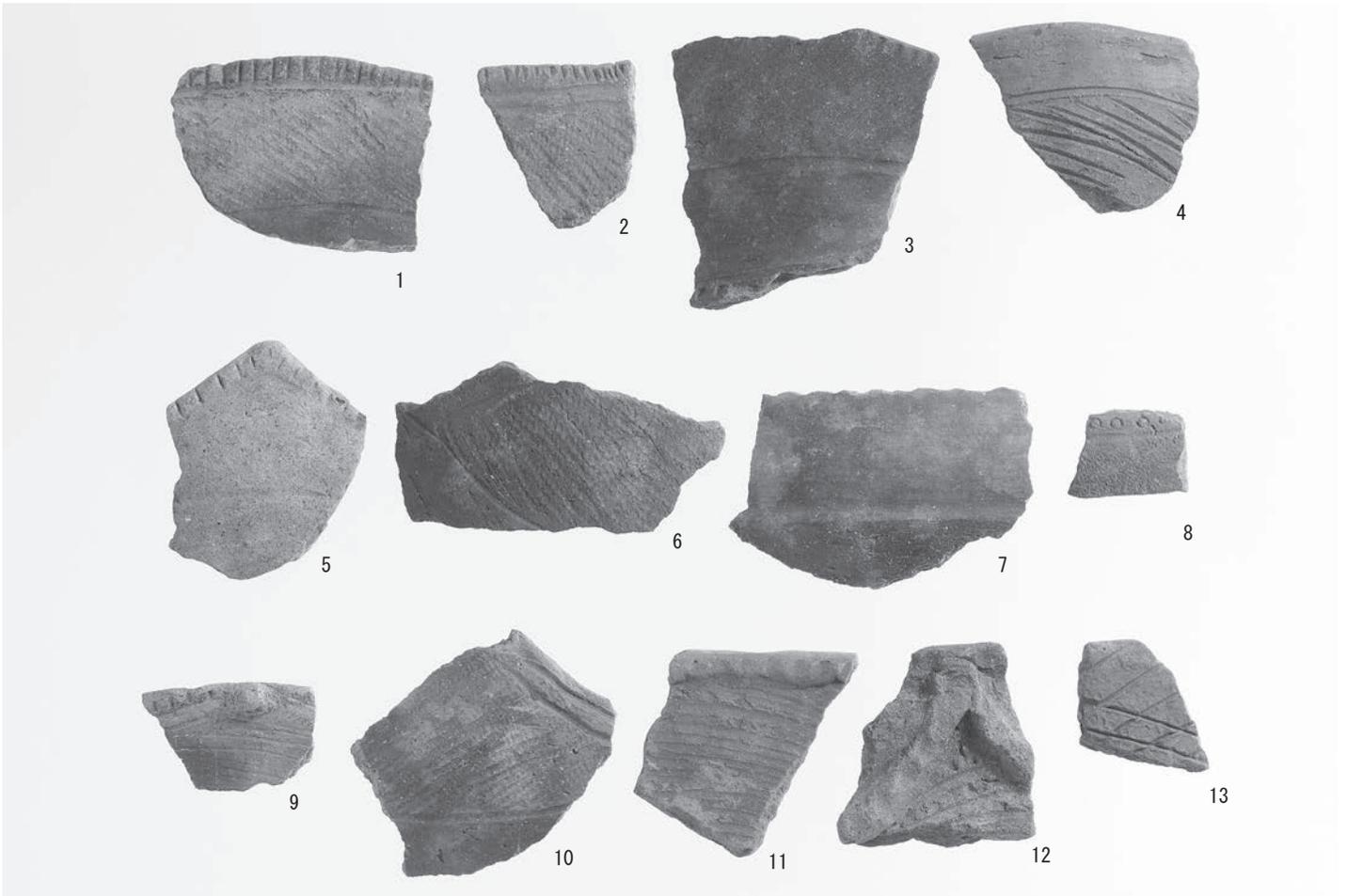


1. 中六遺跡 (17) 出土遺物

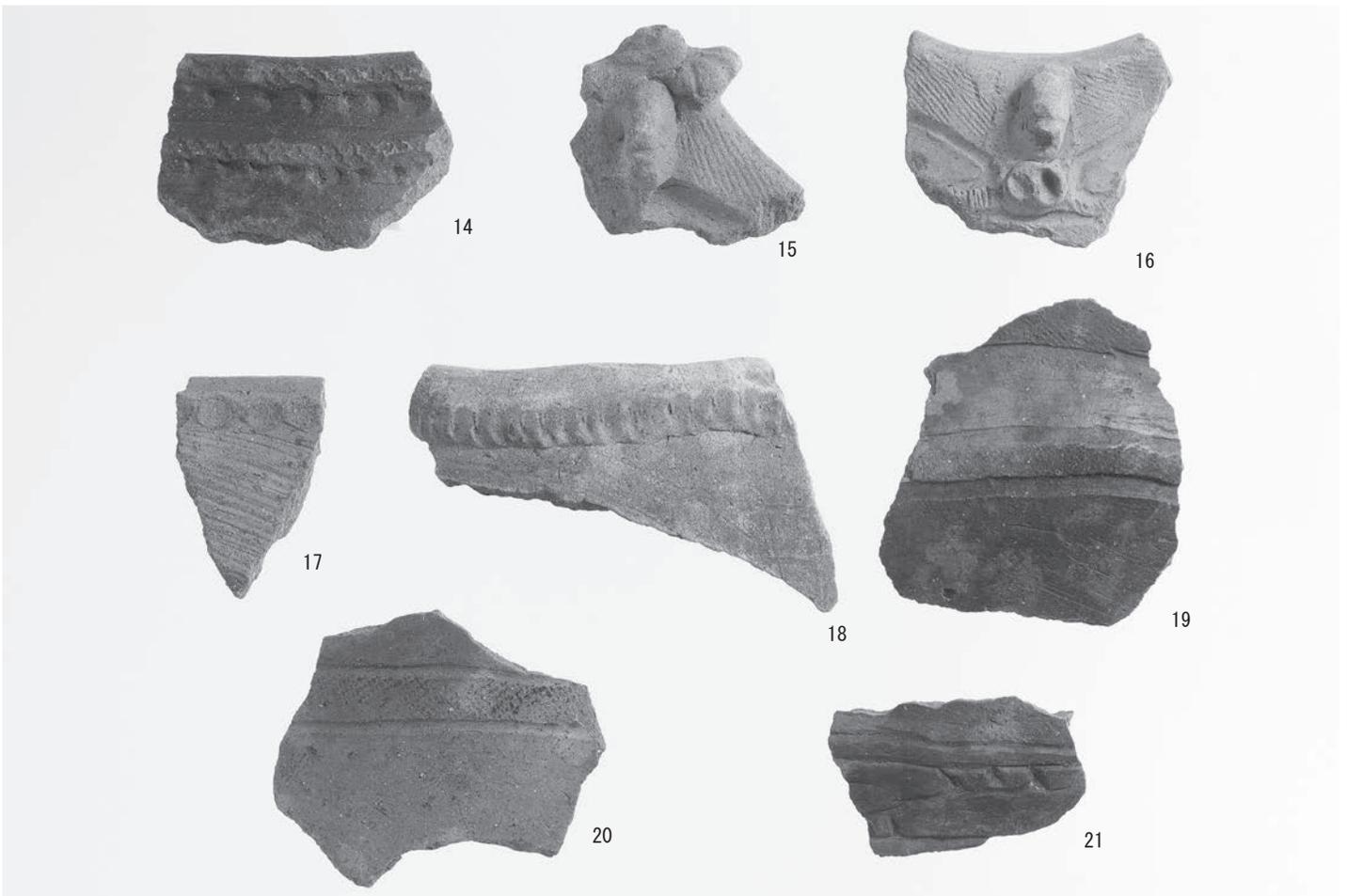


2. 山野貝塚 (5) トレンチ出土遺物 (1)

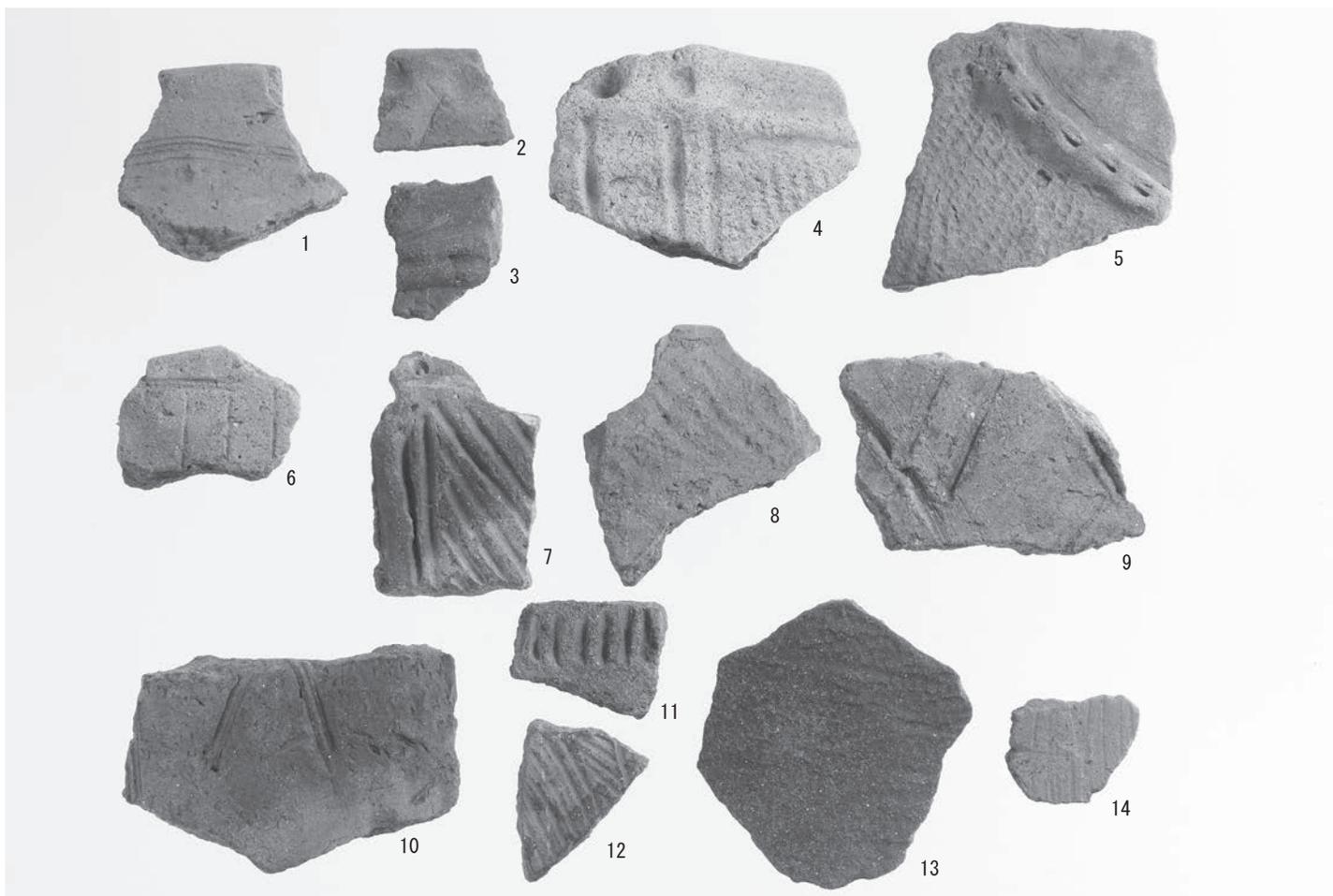
図版10



1. 山野貝塚（5）トレンチ出土遺物（2）



2. 山野貝塚（5）トレンチ出土遺物（3）



1. 山野貝塚（5）周辺採集遺物

## 報告書抄録

ふりがな	ちゅうろいせきだいじゅうごじちようさ・かさがみえーいせきだいいちじちようさ・さんやかいづかだいいちじちようさ・ちゅうろいせきだいじゅうななじちようさ・さんやかいづかだいいちじちようさ								
書名	中六遺跡第15次調査・笠上A遺跡第1次調査・山野貝塚第4次調査・中六遺跡第17次調査 山野貝塚第5次調査								
副書名	平成24年度袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書								
編著者名	桐村 久美子・田中 大介								
編集機関	袖ヶ浦市教育委員会								
所在地	〒299-0292 千葉県袖ヶ浦市坂戸市場1-1 TEL0438-62-2111								
発行機関	袖ヶ浦市教育委員会								
所在地	〒299-0292 千葉県袖ヶ浦市坂戸市場1-1 TEL0438-62-2111								
発行年月日	西暦2013年3月27日								
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地		コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
			市町村	遺跡番号					
ちゅうろいせき 中六遺跡第15 次調査	ちばけんそでがうらしくらなみあざちゅうろ 千葉県袖ヶ浦市蔵波字中六 1259番地4他		12229	SG013	35° 25' 47"	139° 59' 52"	20120507 ～ 20120516	474/ 4,091 m <sup>2</sup>	確認調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項				
ちゅうろいせき 中六遺跡第15 次調査	包蔵地 集落跡	縄文時代、古 墳時代	炉穴8基(縄文時代 早期)、竪穴住居6 軒(古墳時代前期)、 遺物包含層1箇所 (縄文時代早期)	縄文土器、縄文時代石 器、古墳時代土師器	第12次調査に引き続き縄文時代早期の炉穴、遺物包 含層、古墳時代前期の竪穴住居を検出した。				
要約	遺跡北側部分の調査である。第12次調査で確認された縄文時代早期の炉穴群が南側の本調査区までわずかながら 展開していることが判明した。古墳時代の集落については、本調査範囲が制限である可能性が確認された。								
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地		コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
			市町村	遺跡番号					
かさがみえーいせき 笠上A遺跡第 1次調査	ちばけんそでがうらしくほたあさ 千葉県袖ヶ浦市久保田字 行基谷3382番地他		12229	SG113	35° 27' 49"	140° 01' 14"	20120625 ～ 20120628	33.5/ 916 m <sup>2</sup>	確認調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項				
かさがみえーいせき 笠上A遺跡第 1次調査	包蔵地	古墳時代	竪穴住居1軒(古墳 時代後期)	古墳時代土師器	カマドを伴う古墳時代後期の竪穴住居を1軒確認し た。				
要約	遺跡北西端部の調査である。北側及び西側については急傾斜地となっており、南側に古墳時代後期の集落が展開し ている可能性がある。								
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地		コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
			市町村	遺跡番号					
さんやかいづか 山野貝塚第4 次調査	ちばけんそでがうらしいとみ 千葉県袖ヶ浦市飯富3516番 地21他		12229	SG110	35° 26' 01"	139° 57' 25"	20120717 ～ 20120730	30/ 1.685 m <sup>2</sup>	保存目的 調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
さんやかいづか 山野貝塚第4 次調査	貝塚	縄文時代	溝状遺構1条(奈良・平安時代)	縄文土器	北東側では遺構、遺物ともに検出されなかったが、南西側では、新期テフラに被覆された溝状遺構が検出され、縄文時代の遺物が少量出土した。			
要約	貝塚範囲外の北西側及び南西側の調査である。北西側では遺構、遺物は検出されなかった。南西側では縄文時代の遺物が少量出土し、新期テフラ層の残存していることから、縄文時代の土層も残存していることが判明した。							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ちゅうろいせき 中六遺跡第17 次調査	ちばけんそでがうらしくらなみあざちゅうろ 千葉県袖ヶ浦市蔵波字中六 1,295番地3他	12229	SG013	35° 25' 47"	139° 59' 52"	20121128 ～ 20121207	449/ 5,133 m <sup>2</sup>	確認調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
ちゅうろいせき 中六遺跡第17 次調査	包蔵地 集落跡	縄文時代、古 墳時代	炉穴1基(縄文時代 早期)、竪穴住居8 軒(古墳時代前期)	縄文土器、縄文時代石 器、古墳時代土師器	縄文時代早期の炉穴が1基のみ確認された。古墳時 代前期の竪穴住居は点在する。			
要約	遺跡北側部分の調査である。古墳時代前期の集落が、第9・10次調査区から第12次調査区にかけてつながっていることが判明した。							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
さんやかいづか 山野貝塚第5 次調査	ちばけんそでがうらしいとみ 千葉県袖ヶ浦市飯富3,544番 地17	12229	SG110	35° 26' 01"	139° 57' 25"	20130128 ～ 20130208	18.7/ 179 m <sup>2</sup>	保存目的 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
さんやかいづか 山野貝塚第5 次調査	貝塚	縄文時代	溝状遺構1条(近・ 現代)	縄文土器、縄文時代石 器	調査トレンチの大部分が攪乱を受けていた。表土、 及び攪乱、近・現代の溝状遺構から縄文時代後・晩 期の多量に出土したが、わずかに残存した黒色土か らは殆ど出土しなかった。			
要約	貝塚範囲外の北西側の調査である。表土や攪乱から多量の縄文時代の遺物が出土し、黒色土からは殆ど出土しなかった。また、出土遺物の殆どが後期加曽利B式土器であることから、本調査区付近にこの時期の遺構が展開していた可能性がある一方、遺跡の他の箇所から持ち込まれた土によって埋め戻された可能性がある。							

2013年3月22日 印刷

2013年3月27日 発行

平成24年度  
千葉県

## 袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書

中六遺跡第15次調査・笠上A遺跡第1次調査

山野貝塚第4次調査・中六遺跡第17次調査

山野貝塚第5次調査

発行 袖ヶ浦市教育委員会

〒299-0292

千葉県袖ヶ浦市坂戸市場1番地1

印刷 大和美術印刷株式会社

〒292-0067

千葉県木更津市中央1-1-6